

令和8年度実施

令和7年度 教育委員会事務事業点検・評価報告書



令和8年8月

海陽町教育委員会

目 次

1	実施方法	1
	(1) 点検及び評価の対象について	1
	(2) 点検及び評価の方法	1
	(3) 評価結果の取扱いについて	2
	(4) 評価スケジュール	2
2	教育委員会の活動状況	3
	(1) 教育委員会の組織	3
	(2) 教育委員会の会議の開催状況	3
	(3) その他の活動	4
	① 会議・研修会等	4
	② 行事等	4
	③ 学校訪問	4
3	点検及び評価結果	5
	(1) 点検及び評価事業一覧	5
	(2) 事務事業評価シート	7
4	外部評価委員会の意見	7 5
 【資料】		
	資料1 海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱	8 2

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）により、教育委員会にはその権限に属する事務の管理及び執行の状況について、毎年点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この規定に基づき、海陽町教育委員会では、令和 7 年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施し、ここに報告書として取りまとめました。

今後とも町教育行政施策の更なる充実に向けた取り組みの推進に努めて参りますので、皆様の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 実施方法

(1) 点検及び評価の対象について

点検及び評価の対象とする事業は、海陽町第3期教育振興計画（令和3年度から令和7年度までの5年間）及び令和7年度海陽町教育基本方針に定める各施策に基づいて実施した68事業を対象として行いました。

(2) 点検及び評価の方法

①一次評価（内部評価）

教育委員会事務局において、令和7年度に取り組んだ68の各事業ごとに実績を整理し、一次評価を行いました。一次評価は、事業所管係で評価管理シートを用い、事業目的、事業内容、一次評価、今後の取り組みの方向性や今後の方針を記入しました。

成果指標の状況欄の上段には、計画策定時（令和3年度）から計画終了時（令和7年度）までの各年度の目標を数値で記入しています。また、下段には、各年度の実績値を記入します。

一次評価は、令和7年度の達成状況を表1の評価基準により行いました。

評価基準（内部評価）

表1

達成度評価	
目標達成率 100%超(目標を超えて達成している)	A
目標達成率 80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)	B
目標達成率 60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等、大幅な改善を要する)	C
目標達成率 60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)	D

②二次評価（外部評価）

点検・評価内容の客観性を確保するために教育に関して学識経験者を有する外部評価委員会を（外部評価委員名簿 表2）令和8年7月24日(金)に開催いたしました。

本年度実施の外部評価委員会では、一次評価を実施した68の事業の中から、海陽町教育委員会主要施策等の10事業（表3）を抽出し、一次評価に係る目標に対する進捗状況や事業効果などについて点検・評価するとともに、二次評価及び評価に係る意見をいただきました。また、教育委員会の活動状況についても意見をいただきました。（資料は事前に配付し、効率的な会議運営に努めました。）

外部評価委員名簿

表2

事務点検・評価委員名	役職等
福井 千賀子	元婦人会会長・元保育園長
皆津 隆一	元小学校長

二次評価（外部評価）事業一覧

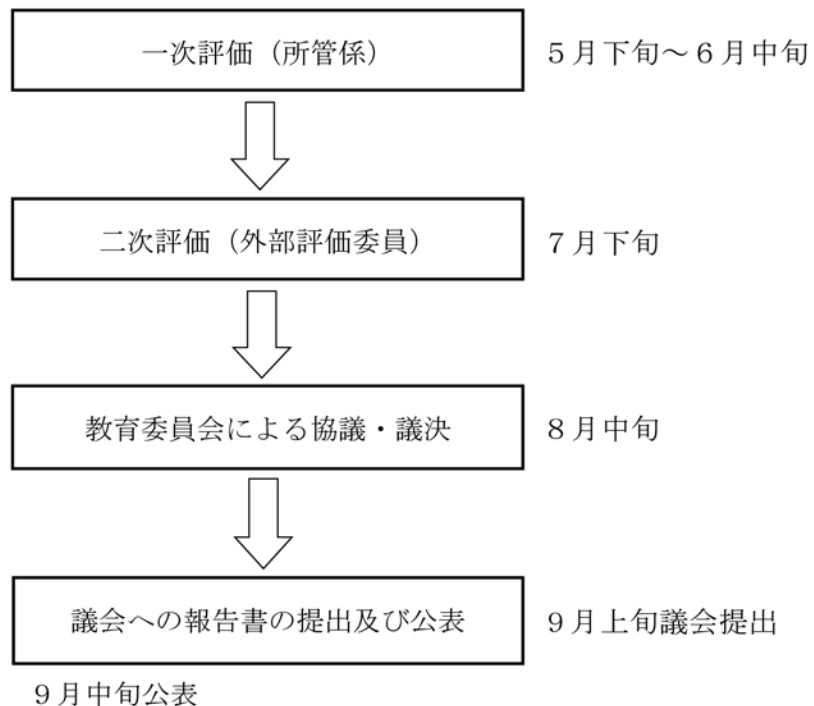
表 3

N o	評価番号	事業名	事業所所管
1	4	地元高校魅力化推進補助	学校教育
2	1 1	グローバル教育の推進	学校教育
3	1 2	I C T教育の推進	学校教育
4	1 9	放課後子ども教室の運営	学校教育
5	3 1	公民館活動	生涯教育
6	4 1	図書館の運営の充実	生涯教育
7	5 0	文化財保護・活用	文化・スポーツ振興
8	5 4	新春ふれあい駅伝大会運営	文化・スポーツ振興
9	5 8	部活動改革への対応の検討	教育基盤の整備
1 0	6 4	衛生環境の向上（洋式トイレの整備）	教育基盤の整備

(3) 評価結果の取扱いについて

教育委員会が行う事務事業の点検及び評価に関する結果を、報告書としてとりまとめ、毎年9月開会の町議会定例会に提出し、公表するとともに、翌年度における施策、事業の改善に役立て、より効果的な教育行政の運営が図られるようにします。

(4) 評価スケジュール



２．海陽町教育委員会の活動状況

（１） 教育委員会の組織

○教育委員会委員の就任状況（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

令和8年3月31日現在

氏 名	役 職	
三 浦 良	教育長	平成30年6月21日 就任 令和 6年6月21日 再任
富 田 充 宏	教育長職務代理者	平成28年5月28日 教育長職務代理者 就任 令和 6年5月28日 再任
木 戸 口 貢 淳	教育委員	平成29年5月27日 就任 令和 7年5月27日 再任
西 宮 治	教育委員	平成30年5月27日 就任 令和 4年5月27日 再任
田 中 美 子	教育委員	令和 7年5月 1日 就任

（２） 教育委員会の会議の開催状況等

毎月1回定例会を開催し、必要に応じて総合教育会議や臨時会を開催

定例会	開催日	議案	協議事項	報告事項	計
令和7年第4回	令和7年 4月16日	2	1	3	6
令和7年第5回	令和7年 5月14日	3	3	3	9
令和7年第6回	令和7年 6月26日	4	0	1	5
令和7年第7回	令和7年 7月30日	2	2	4	8
令和7年第8回	令和7年 8月27日	2	0	4	6
令和7年第9回	令和7年 9月24日	0	1	3	4
令和7年第10回	令和7年10月22日	0	3	4	7
令和7年第11回	令和7年11月19日	3	2	2	7
令和7年第12回	令和7年12月24日	3	1	2	6
令和8年第1回	令和8年 1月26日	2	3	5	10
令和8年第2回	令和8年 2月18日	5	4	2	11
令和8年第3回	令和8年 3月25日	8	2	2	12
計		34	22	35	91

臨時会	開催日	議案	協議事項	報告事項	計
第1回	令和8年 3月 4日	1	1	0	2
計		1	1	0	2

総合教育会議	開催日	議案	協議事項	報告事項	計
第1回	令和7年 4月16日	2	0	0	2
第2回	令和8年 1月26日	1	0	0	1
第3回	令和8年 2月 4日	1	0	0	1
第4回	令和8年 2月18日	1	0	0	1
計		5	0	0	5

(3) その他の活動

①会議・研修会等

時 期	名 称	概 要
令和7年 4月	徳島県市町村教育委員会教育行政連絡協議会	令和7年度徳島県教育重点施策について（年1回開催）
	徳島県市町村教育委員会連合会定期総会・研修大会	徳島県市町村教育長会合同理事会を受けた定期総会及び研修大会
令和7年 5月2日	徳島県・市町村教育委員会教育委員等研修会	教育を取り巻く諸問題に的確に対応し、教育行政の円滑な推進を図る。
令和7年 5月27/28日	視察研修（東京都）	フェリシアこども短期大学、フェリシア高等学校、フェリシア幼稚園 武相荘、渋谷Sponge

②行事等

時 期	名 称	概 要
令和7年 4月	こども園開園式・入園式 小中学校入学式	こども園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席
令和7年 5月～10月	こども園、小中学校運動会・体育祭	こども園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席
令和8年 1月2日	令和8年20歳を祝う会	対象者61名のうち参加者50名 （出席率81.9%）
令和8年 3月	こども園、小中学校卒業式	こども園1園、小学校3校、中学校2校に分散し出席

③学校訪問

時 期	名 称	概 要
令和7年 6月	町教委学校訪問	こども園1園、小学校3校、中学校2校へ3日間訪問

点検及び評価事業一覧

方針	施策	評価 番号	事業名	事業所 管係
1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進	1 幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進	1	幼児教育の充実	学校教育
		2	町内園・校長会の開催	
		3	中学校部活動運営(合同体制)の充実	
		④	地元高校魅力化推進補助	
		5	スクールバス運営	
		6	20歳を祝う会	
2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成	7	学力向上推進	
		8	学校図書館の充実	
		9	キャリア教育の推進	
		10	家庭教育の充実	
	2 グローバル視点の先端教育の推進	⑪	グローバル教育の推進	
		⑫	ICT教育の推進	
		13	子どもあゆみ活用事業	
		14	英語検定補助	
		15	ALT派遣事業	
3 地域と共創する教育力の向上	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上	16	学校活性化協議会	
		17	コミュニティスクールの充実・推進	
		18	土曜学習の推進	
		⑲	放課後子ども教室の運営	
	2 豊かな心と体の育成	20	インクルーシブル教育の推進	
		21	SC・SSW活用	
		22	人権教育の推進	
		23	食育の推進	
		24	学校給食の充実	
		25	いじめ・不登校防止	
		26	定期補導活動	
		27	青少年健全育成活動の推進	
		28	学校教育における福祉教育の充実	
		29	児童生徒の生活習慣の改善	
4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実	1 生涯学習の振興	30	生涯教育の振興と充実	生涯教育
		③①	公民館活動	
		32	伝統文化継承・地域活性化等補助金	
		33	社会教育施設の充実(公民館・体育施設も含む)	
		34	地域づくりに取り組む人財や団体の育成	
		35	グローバルな人財の育成(ALT・CIRの活躍)	
		36	地域における福祉教育の充実	
		37	挨拶や声掛けによる教育の充実	

4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実	2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進	38	海陽町文化協会	生涯教育
		39	文化館の運営の充実	
		40	博物館の運営の充実	
		④1	図書館の運営の充実	
		42	文化館自主事業	
		43	阿波海南文化村祭	
5 地域ぐるみで生き抜く力をつける	1主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底	44	防災教育の推進	防災教育
		45	子どもあゆみ活用事業	
		46	東日本大震災の教訓復興教育	
6 人権教育の推進	1人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進	47	同和教育の推進	人権教育
		48	男女共同参画社会の実現に向けた学習活動への推進	
		49	共生社会の実現に向けた学習活動への支援	
7 文化振興	1文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進	⑤0	文化財保護・活用	文化・スポーツ振興
		51	地域文化伝承の語る仕組みづくり	
8 スポーツ振興	1生涯スポーツ環境の充実	52	スポーツ少年団助成	
		53	体育協会助成	
		⑤4	新春ふれあい駅伝大会運営	
		55	統合型スポーツクラブ	
9 学校指導体制の充実と指導の質の向上	1新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上	56	教職員の指導体制と学校の支援体制充実	教育基盤の整備
		57	教職員の健康管理と働き方改革の推進	
		⑤8	部活動改革への対応の検討	
		59	ICT教育の指導員の養成	
		60	配慮を要する子どもへの支援体制の充実	
		61	特別支援教育の充実(巡回相談員の配置と活用)	
		62	教育委員会表彰	
		63	学校施設整備	
	2学校経営の充実	⑥4	衛生環境の向上(洋式トイレの整備)	
		65	就学援助	
	3教育機会の確保	66	子どもあゆみ活用事業活用	
		67	町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度	
		68	通学補助金交付	

○は外部評価対象事業

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	1
基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	幼児教育の充実							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	
事業目的	こども園・小学校の連携・接続がスムーズにできるよう、事前打ち合わせや事後の振り返りなどの研修会の充実と職員同士のコミュニケーションの場の設定を進める。							
主な事業 内容 (Plan)	○小学校職員と新入学時についての引き継ぎ【4月】 ○アプローチカリキュラムについて共有【8月】 ○年間交流(直接交流・オンラインなど)【通年】							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	こども園と小学校との教員間で情報交換 や研修会の年間実施回数(回)			2	6	8	10	8
上段が目標値 下段が実績値				7	9	9	8	8
成果指標 の達成状況 (Do)	令和7年度の実施回数は目標数値に達することができた。職員同士の情報交換も充実し、密な連携がとれておりつながりのある継続的な就学に向けた深まりのある交流ができた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	「幼保小の架け橋プロジェクト」の実施に伴い、かいうこども園の実態に即したアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの見直しを進めていきたい。町内の複数の小学校との交流を積極的に深め、教職員同士の交流や保育内容など話し合う機会をもち、互いの教育内容への理解を深めていきたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	2
基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	町園・校長会の開催							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	教育委員会と学校現場が互いに共通認識・共通理解を図り、より良い学校教育を推進するとともに海陽町の教育の充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	町内の園・小中学校及び海部高校の校長が毎月、その時々のも種多様なテーマのもと、情報交換を行い、共通理解を図っている。 特に本町の特色として、こども園から高校まで、縦の繋がりを重視し、一貫した教育について、伝達事項・確認事項をはじめ、教育課題の解決に向けた話し合いを進めている。 また、緊急を要する場合は、臨時の園・校長会を開催し、速やかな対応を行っている。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間実施回数（回）			12	12	12	12	12
上段が目標値 下段が実績値				13	12	12	11	11
成果指標 の達成状況 (Do)	・令和 7年 4月10日 （ 5 協議ほか） ・令和 7年 5月19日 （ 8 協議ほか） ・令和 7年 6月25日 （10 協議ほか） ・令和 7年 7月15日 （ 4 協議ほか） ・令和 7年 9月25日 （ 4 協議ほか） ・令和 7年10月16日 （ 3 協議ほか） ・令和 7年11月25日 （ 3 協議ほか） ・令和 7年12月16日 （ 5 協議ほか） ・令和 8年 1月27日 （ 5 協議ほか） ・令和 8年 2月24日 （ 6 協議ほか） ・令和 8年 3月18日 （ 7 協議ほか） ※幼小中高の連携が深められ、海陽町の教育目標の具現化とその実践に向け取り組めた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○園・学校それぞれの学校運営の円滑な推進のために、こども園・小学校・中学校・高校・教育委員会で、毎月園・校長会を開催し、教育委員会、学校間での情報共有など、連携を密にしながより良い学校教育の推進と海陽町の教育の充実に努める。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

3

基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	中学校部活動運営（合同体制）の充実							
事業費 (千円)	R 5	2027	R 6	2155	R 7	2771	所管種別	学校教育
事業目的	海陽中・穴喰中の部活動を維持し、町内中学生の部活動選択肢を総合的に広げ、有意義な中学生生活に繋げる。また、中学校間や小中高と縦横の連携を深め、一貫した教育活動を進めていく。							
主な事業 内容 (Plan)	(1) 部活動バスを活用し、両校の部活動現状体制を維持する。 ①拠点校チームの送迎（週5日程度）に活用する。 ②土・日・祝日では、他校への合同練習・練習試合等に活用する。 ③穴喰中－海陽中の送迎バスを運行する。（週3日－火・水・金） (2) 部活動指導者研修会を開催し、指導者の指導力向上と生徒の体力・スキルアップを図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間実施回数（回）			200	200	200	200	200
上段が目標値 下段が実績値				318	257	293	330	320
成果指標 の達成状況 (Do)	・部活動バスについては、2校の野球・バレー・バスケ・サッカー部の拠点校チームを組んだ。バス利用により、練習・試合等でチームの強化・充実が図られた。また、本事業により、町内部活動体制が維持でき、両校の生徒にとって活発で生き生きとし充実した中学校生活に繋がった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・両校とも郡内拠点校方式及び合同チーム方式で、十分な練習・試合等ができる協力体制を取る。 ・指導者との密接な連絡調整を行い、生徒のスキルアップやチーム力向上に尽くす。 ・海部高校の部活動活性化に繋げる。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

4

基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	地元高校魅力化推進補助							
事業費 (千円)	R 5	13,062	R 6	12,880	R 7	14,259	所管種別	学校教育
事業目的	人口減少が急速に進む地域の高校において、地域の新たな活力を創出するため、特色ある教育や学校の活性化を図り、生徒や保護者の関心を惹きつけるとともに、町独自の魅力ある教育により生徒への支援を通して、定員の維持、高校存続に努める。							
主な事業 内容 (Plan)	海部高校の魅力化や生徒の学力向上を目指して、通信衛星講座・スマホ学習、海外短期留学・国内短期留学・英検補助・部活動の遠征や強化補助・人材育成PR動画の作成の実施							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	県立海部高校への入学者数（人）			100	100	100	100	100
上段が目標値 下段が実績値				109	85	99	99	95
成果指標 の達成状況 (Do)	（令和7年度入学者） 県外・郡外44人 郡内 51人 合計 95人							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	県外郡外の生徒及び生徒の両親が安心して生活できる受入体制の構築や、まち親の開拓等安定した生徒募集が可能な体制づくりを進める。今後、引き続き生徒募集拡大のための広報や、地域みらい留学制度の活用など、高校及び県とともに必要な取り組みを実施する。 令和5年度からは、美波町・牟岐町からも負担金を拠出してもらい、野球部の活性化に取り組んでいる。美波町・牟岐町との連携についても強化していきたい。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

5

基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進						
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進							
事業名	スクールバス運営							
事業費 (千円)	R 5	20,893	R 6	32,116	R 7	25,173	所管種別	学校教育
事業目的	園児・児童の登下校や校外活動にスクールバスを運行して、遠距離通学児童の利便性や安心・安全な通学を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	・園児・児童の登下校及び校外活動に運行する。 ・「海陽町スクールバス運営委員会」を開催し、スクールバスの運営を円滑に行う。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	運営委員会の開催数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				1	1	1	1	1
成果指標 の達成状況 (Do)	令和7年4月4日 スクールバス運営委員会開催							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	老朽化した車両については、計画的な車両更新を行い、安全安心な運行を実施する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

6

基本方針		1 就学前から学齢期の一貫した教育の推進							
施策	1 保・幼・小・中・高の縦・横の連携を生かしての交流学习の推進								
事業名	20歳を祝う会								
事業費 (千円)	R 5	932	R 6	677	R 7	491	所管種別	学校教育	
事業目的	町をあげて人生の節目を祝うことで、ふるさとに誇りを持ち、厳しい時代に打ち勝つ逞しい社会人になるとともに、将来の地域の担い手として大きく前進することを願って実施する。								
主な事業 内容 (Plan)	○8月前半の帰省に合わせ、新成人と打合せ会を行い、記念品の選定・式典当日の役割分担（司会等）について協議を行った。 ○海陽町二十歳を祝う会開催 令和8年1月2日（金） 午後1：00～ 阿波海南文化村 海南文化館ホール 対象者：平成17年4月2日～平成18年4月1日生まれ 海南地区35名 海部地区6名 宍喰地区20名 合計61名（男性34名 女性27名）								
成果指標 の状況				R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
※各年度の 数値は	出席者の割合（%）			70	80	80	80	90	
上段が目標値 下段が実績値				80	66	76	76.2	81.9	
成果指標 の達成状況 (Do)	○令和8年海陽町二十歳を祝う会（令和8年1月2日実施） 出席者：海南地区 男性12名 女性18名 海部地区 男性4名 女性0名 宍喰地区 男性10名 女性6名 合計50名 出席率81.9%であった。								
一次評価 (内部) (Check)	事業の達成度評価								
		A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している）							
	○	B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している）							
		C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する）							
今後の 取り組み の方向性		拡	充	今後の方針 (Action)	新成人が企画運営に携わる良い伝統を継承しつつ、今後も思い出の残る良い成人式を新成人とともに考え、運営していく。 民法改正により成人年齢が引き下げられたが、今後も現行どおり20歳を迎える方を対象とする。				
	○	継	続						
		縮	小						
		見	直						し
		休	廃						止

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

7

基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成							
事業名	学力向上推進							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	小学校 ①基礎・基本の定着と児童の思考力を深める授業の実践 ②学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立 中学校 ①基礎・基本の定着を図りつつ、主体的に学ぶ力を伸ばす学習指導の工夫改善 ②学習習慣を定着させるとともに、効果の上がる勉強方法を身につけさせる。							
主な事業 内容 (Plan)	・各教科の学習や特別活動等において目標を設定し、主体的に取り組めるように促す。 ・学習のめあてをはっきりと示し、振り返りの時間をしっかりと位置づけ、個々の学びを共有することにより、次の学習への意欲を高める。 ・子供の関心を生かした魅力ある単元づくりを進める。 ・「なぜ」、「どうして」の疑問が生まれる発問の工夫をする。 ・授業目標の明示や振り返りを行い、基礎的・基本的な知識・技能が身につくようわかりやすい授業を実践する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙において、「授業（小国・算・中国・数）の内容がよく分かる」と答えた児童生徒の肯定的な回答の割合（％）			全国平均回答率以上	全国平均回答率以上	全国平均回答率以上	全国平均回答率以上	全国平均回答率以上
上段が目標値 下段が実績値				中の国以外 は全て全国 以上	小学校は全国 平均以上	中の数以外 は全て全国 以上	小の算以外 は全て全国 以上	全国平均回答率以上
成果指標 の達成状況 (Do)	・小学校の国語・算数、中学校の国語・数学すべて全国平均回答率より高い。 ○国語 勉強は好きで、授業の内容もよく分かると答えた割合は、小中学生ともに全国値と比べて高い。特に小学生が勉強が好きで、授業の内容がよく分かると答えた割合が高い傾向にある、 ○算数・数学 授業の内容はよく分かると答えた割合は、小中学生ともに全国値と比べて高い。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○AI型教材「Qubena」を活用し、個に応じた指導を行う。 ○主体的・対話的で深い学びに繋がる授業改善を生徒に発達段階に応じて積極的に取り入れる。 ○タブレット機器を効果的に活用し、生徒の理解を促進させ思考力や判断力の育成に努める。各教科や朝自習等で学力向上確認プリントを使用して「活用力」を高めていく。 ○数学的な表現を用いて説明する機会を多く持たせるようにする。いろいろな表現方法を学ばせることで、表現力を高めさせる。 基本的な証明問題に取り組ませる中で、図形の性質をしっかりと理解させ、その上でいろいろな結論の証明問題に取り組ませる。 ○グローバル人材育成のため、学校種間で連携した研修の実施など小・中学校、高校の系統的な英語教育の指導体制を充実させる。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	8
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成							
事業名	学校図書館の充実							
事業費 (千円)	R 5	963	R 6	983	R 7	948	所管種別	学校教育
事業目的	各学校の図書充足率向上を目指すとともに、児童・生徒の本に親しむ機会をつくり、学力の向上、調べ学習や読書活動の充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	子どもの豊かな読書経験の機会を充実させていくためには、子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心に応える魅力的な図書を整備・充実させていくことが必要であり、各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等において多様な教育活動を展開していくためにも、図書の充実を図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校図書館図書標準の20%増達成率 (%)			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%	100%	100%
成果指標 の達成状況 (Do)	令和7年度購入実績 ・海南小学校 75冊 137,290円 ・海部小学校 121冊 200,000円 ・宍喰小学校 118冊 210,790円 ・海陽中学校 102冊 200,000円 ・宍喰中学校 84冊 200,000円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○様々な情報機器に触れる機会が増え、読書離れや活字離れの進行が懸念されるなか、こどもたちが読書の楽しさや価値を理解し、学校生活の中で継続的に読書を行う習慣を身につけられるよう、年齢や成長に合わせた支援を行っていくことが課題となっている。 ○朝読書や一斉読書の時間を設け、継続して本を読む習慣を身につけられるようにする。また各学年で目標冊数や読書時間を設定し、学年ごとに取り組みを進めるほか、図書委員が中心となり読書推進のための活動を行う。 ○学校図書館の蔵書やテーマ別コーナーを充実させ、児童生徒の興味・関心に対応できる環境を整える。 ○移動図書館や団体貸出の活用など図書館と連携し、読書活動を推進する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	9
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成							
事業名	キャリア教育の推進							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	地元海陽町の生活を支えている人材との出会いや交流体験、職業に関わる体験などの活動をとおして、自らの生き方や将来の職業生活について考えを深め、社会的、職業的に自立し、社会の中で自分の役割や自分らしい生き方を実現させようという心を育成する。							
主な事業 内容 (Plan)	夢の実現に向けて自己を切り拓く態度や能力を培うキャリア教育を推進する。 児童生徒の発達段階に応じ、小学校段階から学校の教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育を推進し、一人一人の望ましい勤労観、職業観を育てる教育の充実を図り、中学校職場体験学習プログラムを活用した職場体験を行う中学校を支援する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	キャリアパスポートの作成と学年、校種間 への引き継ぎ率（％）			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%	100%	100%
成果指標 の達成状況 (Do)	○キャリア教育全体計画の作成、キャリアパスポートの活用							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○小学校、中学校のキャリア教育を支援するため、児童生徒が自分自身のキャリア発達を継続的に記録、蓄積するキャリア・パスポートについての活用の周知徹底を図る。 ○中学校においては、職場体験やいのちの学習教育等を行うことにより、キャリア教育を推進し、進路意識を高めていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	10
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	1 たくましく生きるための確かな学力と自立する力の育成							
事業名	家庭教育の充実							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	家庭は全ての教育の出発点という視点にたち、家庭の教育力向上とその充実を図るため、各種情報の提供や相談支援など家庭教育の支援に努める。							
主な事業 内容 (Plan)	親子参加しやすい企画（文化村まつり等）の実施							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	家族で参加できるイベント実施回数・世代間交流年間実施回数（回）			1	1	1	2	2
上段が目標値 下段が実績値				4	3	3	2	2
成果指標 の達成状況 (Do)	文化村まつり連携事業として実施した「かけっこ教室」「なわとび教室」は、主に小学生を対象としたが、「保護者同伴であれば年長児可」とし、親子参加を促すことで世代間交流が生まれた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今後の 取り組み の方向性		拡 充	今後の方針 (Action)	家庭は全ての教育の出発点という視点にたち、今後も親子で参加しやすい企画内容を心がける。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

11

基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	グローバル教育の推進							
事業費 (千円)	R 5	47,357	R 6	48,535	R 7	65,586	所管種別	学校教育
事業目的	海陽町の児童生徒の「使える英語」の力を伸ばし、グローバル化に対応できる人材を育成する。							
主な事業 内容 (Plan)	・地域活性化起業人制度を活用した質の高い教育の維持 ・グローバル事業スタッフの配置（グローバル教育推進員・ALT・英語推進員） ・学校教育の充実（授業ミーティング・帯活動） ・学校外活動の展開（放課後英語プログラム・英語イベント（イングリッシュキャンプ含む）） ・地域/観光への拡充 (国際交流イベント・HP整備・英語表記/翻訳サポート・関係機関協力/連携・広報掲載等) ・検定等受験の促進（英検/英検ESG補助・CEFR測定）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	中学校3年生で英検3級合格者の割合 (%)			40	65	65	65	65
				46	51	50	37	39
	中学3年生でCEFR（A1以上）取得割（%） ・CEFR-J（A1-3.1・A1-3.2）の2種類実施 ・2種類を合計した平均で計上			40	50	60	65	70
				32	35	37	34	39
成果指標 の達成状況 (Do)	昨年度より合格者の割合は上昇したが、約半数は4・5級を受験している。各学年で年1回は受験できるよう学校と協力し実施していく。 グローバル事業全体では、こども園でのイマージョン保育、中学校でのオールイングリッシュ授業のなど就学前から一貫したグローバル教育の実施に向けて新たに取り組んだ。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今後の 取り組み の方向性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	・中学校：オールイングリッシュ授業の拡大 ・スタッフのトレーニング制度の整備 ・海陽町版デュアルスクールの実施 ・放課後イマージョンの実施 ・就学前英語教育の実施内容・方法について検討				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

12

基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	ICT教育の推進							
事業費 (千円)	R 5	4, 355	R 6	11, 334	R 7	16, 193	所管種別 学校教育	
事業目的	I C T環境の整備を進め、子ども達の学力向上やコミュニケーション能力・論理的思考力の育成を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	1) 電子黒板導入 教員の業務の効率化や授業の幅を広げられるよう全ての小中学校に電子黒板を整備した。 2) VRゴーグル導入 町内にて各種体験ができるようにVRゴーグルを整備した。 3) 部活動遠隔システムの導入 県外の大学等から専門的なアドバイスが受けられるよう、大型モニター・カメラ・スピーカーを整備した。 4) モデル校（海部小学校）の取り組み ICT技術に特化した大学の学生を地域おこし協力隊として契約し、AIを活用した授業をモデル校である海部小学校等で実施し、各校（穴喰中・海南小）へ広げた。 5) iPad活用研修 各小学校にてiPadの活用について海部小学校教員が研修を行った。 6) オンライン教材の充実 Qubena・スパトレ等のオンライン教材の活用を行った。							
成果指標 の状況 ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	AI機器・タブレット・遠隔システム等活用 時間数（時間）			50	60	70		
				70	219	116		
	A I ドリル平均回答数					160	180	200
						116	103	103
成果指標 の達成状況 (Do)	※タブレット活用が有効な教科 国語 算数 生活 理科 社会 外国語 総合等 AIドリル平均回答数 103問							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	○	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今後の 取り組み の方向性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	・海陽町の特化したICT教育を推進するため、生成AI活用が可能となるiPad airの整備を行う。 ・外部の専門家等によるICT活用の授業を各校にて行っていく。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

13

基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	子どもあゆみ活用事業							
事業費 (千円)	R 5	2, 928	R 6	3, 369	R 7	7, 791	所管種別	学校教育
事業目的	小学校の英語授業に英語推進員を配置することで、ALTを主とした授業展開を促進する。							
主な事業 内容 (Plan)	・小1～小6の英語授業にALT・英語推進員が全て出席できるようにプランを組む。 ・効率的な授業内容とするために毎週あるいは隔週でミーティングを実施する。 ・児童へ入学後スムーズに授業実施ができるよう、就学前において英語あそびを実施する。 ・各種イベントの準備・運営等のサポートを行う。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	英語授業等における配置希望 (英語推進員)と達成度(人)			75	75	75	100	100
上段が目標値 下段が実績値				73	70	73	73	100
成果指標 の達成状況 (Do)	・小学校の全ての英語授業に英語推進員を配置することができた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・現在の人数、教育の質を維持しながら、事業の充実を図っていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	14
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	英語検定補助							
事業費 (千円)	R 5	228	R 6	282	R 7	379	所管種別	学校教育
事業目的	児童生徒の英語力及び学習意欲の向上を図るため、英語検定の補助を行う。 海陽町小中学生の英語力の把握を行い、英語事業を効果的に行う。							
主な事業 内容 (Plan)	公益財団法人 日本英語検定協会が実施する英語検定等を1年度1回分につき、 以下のとおり補助する。 ・小学校1年生～中学校3年生 全額補助							
成果指標 の状況 ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	小6年における英検受験率%)			-	-	10	15	20
				-	-	6	16	6
	中1年における英検受験率%)			-	-	15	25	35
				-	-	10	23	25
	中2年における英検受験率%)			-	-	20	35	50
-				-	20	28	39	
成果指標 の達成状況 (Do)	・文化館の実施では、6年生より4・5年生の受験率の方が高く、6年生は低かった。 ・小6(2名)、中1(12名)、中2(18名)が受験。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	・中学生、年1回受験を目指し学校と協力し実施していく。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	15
基本方針		2 たくましく社会を生き抜く力を育てる学校教育の充実						
施策	2 グローバル視点の先端教育の推進							
事業名	ALT派遣事業							
事業費 (千円)	R 5	19,528	R 6	22,354	R 7	24,433	所管種別	学校教育
事業目的	A L T等を増やし、学校での英語授業や町の英語事業を充実させる。							
主な事業 内容 (Plan)	小・中学校の全ての英語授業にA L Tが参加できるように配置する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	外国人スタッフ（A L T・C I R等） の人数（人）			5	5	6	6	6
上段が目標値 下段が実績値				5	5	5	6	6
成果指標 の達成状況 (Do)	(A L Tの配置) ・海南小学校・海部小学校1名 ・宍喰小学校1名 ・海陽中学校1名 ・宍喰中学校1名							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	教育現場経験のある能力の高いスタッフの採用とトレーニングシステムの整備により、質の高い教育環境の維持を図っていく。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

16

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上							
事業名	学校活性化協議会							
事業費 (千円)	R 5	292	R 6	297	R 7	379	所管種別	学校教育
事業目的	海陽町教育委員会の権限と責任の下、海陽町内の各学校及び教育全般の諸課題について、学校運営の改善や児童生徒の健全育成及び町全体の教育内容の向上について取り組む。							
主な事業 内容 (Plan)	海陽学校活性化協議会の3つの役割 1. 各小中学校の学校運営協議会の要としての役割 2. 町全体の教育課題の協議する場としての役割 3. 土曜学習のまとめの場としての役割 ○組織は、小中学校長、小中PTA、有識者、町教育委員会等、計18名で構成 ○主な教育議題は、各小中学校の学校経営上の諸課題、海部高校魅力化推進、土曜学習の在り方等について							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間会議開催数（回） ・2ヶ月に1回の割合で			5	5	5	5	5
上段が目標値 下段が実績値				2	4	5	5	5
成果指標 の達成状況 (Do)	○年間会議5回（5月・7月・10月・11月・2月）を予定通り開催することができた。 ○各校とも各校運営委員との情報交換を計画的・日常的に行い、学校運営等に生かすことができた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超（目標を超えて達成している）						
	○	B 目標達成率80%以上～100%（目標を達成、もしくは概ね達成している）						
		C 目標達成率60%以上～80%未満（目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する）						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	海陽学校活性化協議会運営の継続・発展及び海陽町の子どもや保護者・地域等の様々な教育課題について幅広く協議する場としての役割を果たしていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

17

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上							
事業名	コミュニティスクールの充実・推進							
事業費 (千円)	R 5	190	R 6	190	R 7	200	所管種別	学校教育
事業目的	保護者や地域住民が学校運営に参画する「学校運営協議会」制度の導入により、地域の力を学校運営及び児童生徒の育成に生かす「地域とともにある学校づくり」を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	各学校・保護者・地域が一体となり、「地域とともにある学校づくり」の教育活動の基盤となる学校運営協議会の開催及び活性化を推進する。 ○各校コミュニティスクール年間計画の作成 ○各校年間3回の学校運営協議会の開催							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校運営協議会会議の開催回数（回）			2	2	3	3	3
上段が目標値 下段が実績値				1	2	3	3	3
成果指標 の達成状況 (Do)	○各校コミュニティスクール年間計画を作成し、学校活性化協議会での共通理解を図った。 ○各校計画案通り年3回の学校運営協議会が実施できた。また、学校行事(運動会・文化祭・学習発表会・入学式・卒業式等)ごとに運営委員に案内を出し、意見交換をした。 ○各校とも、学校と保護者・地域と学校運営や子どもの状況に関しての情報交換及び地域教育力を生かした活動が実践できた。 ○学校評価に委員の意見を反映させることで、学校関係者評価が効果的に実践され学校経営改善につながっている。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	各校教育方針に沿った学校教育活動を地域の方々にご理解ご支援をいただきながら、持続可能な範囲で継続・発展させていく。また、各校学校運営協議会も計画通り開催し、子どもたちのために学校・保護者・地域の信頼関係や協働体制をさらに構築していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	18
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上							
事業名	土曜学習の推進							
事業費 (千円)	R 5	21	R 6	55	R 7	163	所管種別	学校教育
事業目的	学校、家庭、地域社会が連携し、様々な体験活動を行うことにより、「主体性・生きる力」を育成する。							
主な事業 内容 (Plan)	○小中高生を中心に据えた活動を通して、ふるさとを知り誇りを持つ子どもの育成。 ○地域の教育力(地域人材・教育資源等)を生かし、地域に根ざした体験活動や交流活動を行う。 ○子どもたちに関わることにより、地域人材・地域教材等の拡大等、地域活性化を図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	体験活動の年間実施回数（回）			5	5	5	5	5
上段が目標値 下段が実績値				5	10	10	10	10
成果指標 の達成状況 (Do)	1. 学校と連携した事業 ①防災学習(小5年) ②文化財めぐり(小6年)・・・①②とも、3小学校合同実施。 2. 地域と一緒に活動した事業 「植物採集教室」「室内ゲーム大会」「海部川遊び」「星空観察教室」「科学体験教室」 他団体と「竹の水鉄砲」を実施。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	地域人材・教育資源等を生かし、自然・歴史・防災・科学等、様々な体験活動を企画し、安全対策をとりながら実施していきたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

19

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	1 コミュニティ・スクールを核とした教育力の向上							
事業名	放課後子ども教室の運営							
事業費 (千円)	R 5	15, 119	R 6	15, 633	R 7	14, 254	所管種別	学校教育
事業目的	放課後に児童を一時的に預かり、保護者に代わって地域住民である指導員が見守り役をすることで、児童の安全・安心な居場所の提供を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	放課後に指導員のもと、町内の3小学校の児童が各地域で社会教育施設や学校施設などを活用した安全な環境で学習活動、校外活動などに取り組む。 ・対 象 町内に在籍する小学校1～6年生 ・開所日 月曜日～金曜日（土日祝日、学校の長期休みは除く） ・時 間 授業終了後～17時 ・利用料 年間800円（保険代） ・場 所 海南：海南子ども館、海部：奥浦老人福祉センター、穴喰：穴喰小学校							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R3	R4	R5	R6	R7
※各年度の 数値は	3館の登録児童数（人）			200	200	200	200	200
上段が目標値 下段が実績値				215	217	221	207	199
成果指標 の達成状況 (Do)	・3館の登録児童数 199名 ・年間開所日 194日 ・学校や教室と月1回の話し合いの場以外でも、連絡を密に取ることで迅速な対応に努めた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	登録人数からも分かるとおり、放課後子ども教室は日中保護者が働いている家庭などの受け皿として、必要な場所となっている。また児童にとっても他学年との交流の場となっている。 しかしながら、指導者の高齢化に伴い体験教室の減少と、地域とのつながりが薄れていることが課題となっている。地域住民の方々が講師を務める教室は交流の場として、成果を上げていると考えるため、今後も地域や外部団体と連携し、積極的に開催していきたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

20

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	インクルーシブ教育の推進							
事業費 (千円)	R 5	3,307	R 6	4,169	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	障がい等の有無によらず、児童生徒ができるだけ同じ場で共に学ぶことを目指す。							
主な事業 内容 (Plan)	・一人一人の苦手さに合わせた柔軟な選択ができるよう、通級指導教室を設置する。 ・将来を見越し、集団の中でもスムーズに活動できるよう、特別支援学級・通級指導教室内で自立活動やソーシャルスキルトレーニングを実施していく。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	通級指導教室・連絡会(回)			-	-	2	3	3
上段が目標値 下段が実績値				-	-	2	2	0
成果指標 の達成状況 (Do)	県設置となったことで、町のサポートから離れての運営が可能となった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	○	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・外国にルーツを持つ児童生徒が増えており、日本語及び文化の違いに対しての支援が必要な場面が多くなってきている。 ・特別支援サポートが必要な児童生徒と合わせて、ニーズを把握していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	21
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	SC・SSW活用							
事業費 (千円)	R 5	415	R 6	632	R 7	551	所管種別	学校教育
事業目的	いじめや不登校、虐待等、児童生徒や家庭の課題に対して、相談活動を実施したり、支援機関と連携することで、それらを解決・改善することを目的とする。							
主な事業 内容 (Plan)	○スクールカウンセラー 宍喰中学校区（宍喰中学校・宍喰小学校）1名 海陽中学校区（海陽中学校・海南小学校・海部小学校）1名 ○スクールソーシャルワーカー 海陽町内小中学校 1名 ○町相談員（公認心理士）1名 上記のとおり各校に配置し、相談事業を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー 巡回相談員活用校の割合（％）			-	-	100	100	100
				-	-	100	100	100
成果指標 の達成状況 (Do)	・各校ともスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・巡回相談員の利用があった。 ・スクールソーシャルワーカーは1年目であったことから、サービス利用や支援内容についての相談を定期的に行った。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・町の福祉部門と学校SWとの連絡会を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	22
基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	人権教育の推進							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	人権尊重の精神の寛容を図り、人権が共存する社会を築くため、学校・家庭・関係機関等と連携して、時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	学校の人権教育を充実させるためには、人権教育で育てたい資質・能力（知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面）を明確にし、各教科、特別の教科道徳、総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図った教育課程を編成する。そして、目標やねらいが達成できるように、指導内容や学習活動を互いに結び付け、効果を高めることができるように実践していく中で、人権や人権課題についての学習（人権学習）を行い、人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成を図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	全国学力・学習状況調査において「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合（％）			74	75	77	78	80
				83	96.8	97.9	89.1	小学校 100% 中学校 92.5%
成果指標 の達成状況 (Do)	全国学力・学習状況調査において「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問に「当てはまる」と答えた児童生徒の割合。 小学校 100.0% 中学校 92.5%							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も学校の人権教育を充実させるために、学校・家庭・関係機関等と連携して、時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

23

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	食育の推進							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	様々な学習や体験活動を通して、食に関する関心や理解を高め、子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	・「海陽町学校食育推進委員会」を開催する。 ・地場産食材を使用した学校給食の日の献立を通して、子どもたちの地域の農林水産物や産業への理解を深め、郷土への愛着を深める。 ・食生活アンケートの実施や県食育推進パワーアップ作戦の授業を実施し、食育の推進を図る。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	「海陽町食生活アンケート」より朝食を毎日食べる児童生徒の割合（％）			90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
上段が目標値 下段が実績値				83.8%	81.5%	84.2%	84.3%	85.7%
成果指標 の達成状況 (Do)	・「海陽町学校食育推進委員会」を6/30に開催。 ・海陽の食材を味わう日（毎月19日）に海陽町産食材を使った学校給食献立を実施。広報として「給食だより」を利用し、QRコードを記載するなど、生産者の顔及び食材の情報が見えるように工夫した。 ・食生活アンケートを実施。（7月） ・徳島県学校食育推進パワーアップ作戦で町内の該当学年で同じ学習内容を教諭等と栄養教諭によるTT授業で実施。また、パワーアップ作戦の対象でない学年においても、給食の時間などを活用した栄養教諭による食に関する指導を進めた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	食生活アンケートの結果をふまえて、望ましい食習慣・食生活を見直すとともに、QRコードなど画像を使って地域の産物を理解し、食への感謝の気持ちを育むように引き続き努める。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

24

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上																												
施策	2 豊かな心と体の育成																													
事業名	学校給食の充実																													
事業費 (千円)	R 5	76,829	R 6	79,231	R 7	78,162	所管種別	学校教育																						
事業目的	児童生徒が地域への愛着や農業への興味・理解を深め、食に対する正しい考え方を身につけるために、安全・安心な地場産物を活用した給食の提供を推進する。																													
主な事業 内容 (Plan)	安心安全な地場産物を取り入れた魅力のある給食を提供する。																													
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7																						
※各年度の 数値は	学校給食における地場産物活用率（％）			県活用率平均以上	県活用率平均以上	県活用率平均以上	県活用率平均以上	県活用率平均以上																						
上段が目標値 下段が実績値				58.2%	55.4%	56.5%	56.2%	56.7%																						
成果指標 の達成状況 (Do)	海陽町の食材を味わう日として毎月19日を「食育の日」としている。 ●令和7年度学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査結果 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">県活用率(平均)</th> <th colspan="2">海陽町活用率(平均)</th> <th rowspan="2">(参考) 徳島県食育推進計画(第4次)における目標値 学校給食に地場産物に活用する割合 65% 学校給食に国産食材を活用する割合 85%</th> </tr> <tr> <th>地場産物</th> <th>国産食材</th> <th>地場産物</th> <th>国産食材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月期</td> <td>64.9%</td> <td>89.1%</td> <td>51.2%</td> <td>90.1%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11月期</td> <td>64.7%</td> <td>89.6%</td> <td>62.3%</td> <td>91.2%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									県活用率(平均)		海陽町活用率(平均)		(参考) 徳島県食育推進計画(第4次)における目標値 学校給食に地場産物に活用する割合 65% 学校給食に国産食材を活用する割合 85%	地場産物	国産食材	地場産物	国産食材	6月期	64.9%	89.1%	51.2%	90.1%		11月期	64.7%	89.6%	62.3%	91.2%	
	県活用率(平均)		海陽町活用率(平均)		(参考) 徳島県食育推進計画(第4次)における目標値 学校給食に地場産物に活用する割合 65% 学校給食に国産食材を活用する割合 85%																									
	地場産物	国産食材	地場産物	国産食材																										
6月期	64.9%	89.1%	51.2%	90.1%																										
11月期	64.7%	89.6%	62.3%	91.2%																										
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価																													
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)																												
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)																												
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)																												
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)																													
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	引き続き調理業務を委託している業者と連携を図りながら、安全安心な給食の提供を行っていききたい。今後も地場産物を積極的に利用し、活用率の向上を目指すよう努める。																										
	○	継 続																												
		縮 小																												
		見 直 し																												
		休 廃 止																												

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

25

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	いじめ・不登校防止							
事業費 (千円)	R 5	-	R 6	0	R 7	102	所管種別	学校教育
事業目的	多様化するいじめ・不登校問題についての予防対策を行う。また、問題が発生した場合には解決のための取組を実施する。							
主な事業 内容 (Plan)	不登校対策協議会を立ち上げ、学校・専門職（SC・SSW等）・民間事業所と学校に行きづらい児童生徒についてのサポートを行う。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	不登校対策協議会の開催(回)			-	-	0	1	3
上段が目標値 下段が実績値				-	-	0	0	5
成果指標 の達成状況 (Do)	・SC・SSW・相談員が定期的・臨時的に相談を実施した。 ・SW連絡会（不登校対策協議会）を開催し、アドバイザーのスーパーバイズを受けながら困難ケース等の相談を行った。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・連絡会を定期的の実施し、連携を行っていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

26

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	定期補導活動							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	補導活動を計画的に実践し、学校や関係諸機関との連携を深め、青少年の健全育成と非行防止活動に取り組む。							
主な事業 内容 (Plan)	(1) 地域や関係機関との密接な連携を図り、日常の実践活動に活かす。 (2) 学校行事や地域の行事等に参加し、子どもの実態把握に努める。 (3) 地域の非行防止活動を推進する。 (4) 補導員の資質向上と必要な知識・技能の習得のため、各種大会及び研修会に参加する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	町内補導員の人数（人）			21	21	21	21	21
上段が目標値 下段が実績値				21	21	21	21	21
成果指標 の達成状況 (Do)	①年間活動計画に沿って、補導活動が計画どおり実施できた。 ②補導活動を通じて、地域や関係諸機関との、交流・コミュニケーションを取ることができた。 ③各学校の協力により学校行事へ参加し、学校・生徒の様子や実態把握ができた。 ④青少年町民育成会議では、各学校と関係機関との連絡調整ができた。 ⑤地域や各機関等の協力により、地域の安心・安全な町づくりに貢献できた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	(1) 地域や関係機関との連携を図り、地域のために貢献する。 (2) 地域や学校行事等に積極的に参加し、子ども・地域の動向を把握する。 (3) 安心・安全な地域づくりに貢献する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

27

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	青少年健全育成活動の推進							
事業費 (千円)	R 5	57	R 6	137	R 7	84	所管種別	学校教育
事業目的	青少年健全育成の推進のため、地域ぐるみでの健全育成への取り組みを図り、家庭、地域の連携を通じた青少年の健全育成や、様々な奉仕・体験活動を通じた地域健全育成活動を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	○文化財めぐり 8/20（穴喰小・海部小・海南小6年生）博物館内学習、大里八幡神社、浪切不動尊、穴喰浦の化石漣痕、八坂神社 ○防災学習 8/21（穴喰小・海部小・海南小5年生）南部防災館：教育長からのお話、フィールドワーク、南部防災館：昭和南海地震・津波の講話、防災実技 ○文化祭こども俳句作品発表（町文化祭期間中に応募作品展示） ○補導員活動（毎月各地区に応じた活動を実施）※海部・海南地区と穴喰地区で各定期補導を実施							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	文化財めぐりと防災学習の実施回数（回）			2	2	2	2	2
上段が目標値 下段が実績値				2	2	2	2	2
成果指標 の達成状況 (Do)	○防災学習（町内3小学校5年生対象）を1セットで、上記の日時に実施した。 ○文化財めぐり（町内3小学校6年生対象）を1セットで、上記の日時に実施した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	児童・生徒を見守っていってもらえるような効果的な取り組みを行っていきたい。今まで以上に、家庭・学校・地域との連携を図り、《共に育む、豊かな心と生きぬく力》を基本理念に青少年の育成を目指していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

28

基本方針		3 地域と共創する教育力の向上						
施策	2 豊かな心と体の育成							
事業名	学校教育における福祉教育の充実							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	すべての人がかけがえのない存在として尊ばれ、差別や排除されたりすることなく社会生活の中でともに支えあい、一人ひとりが生きる喜びを感じることができるよう、「ともに生きる力」を育むことを目標とした教育を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	・小・中学校で認知症サポーター養成講座を開催 ・小・中学校で福祉体験学習 (車イス体験・アイマスク体験・介護ロボット体験・手話体験・要約筆記体験) ・世代間交流 ・福祉教育・ボランティア活動連絡会を年1回開催（海陽町社会福祉協議会と学校担当者）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	総合的な学習の時間において福祉に関する 学習の回数（回）			1	1	1	2	2
上段が目標値 下段が実績値				1	1	1	2	2
成果指標 の達成状況 (Do)	令和7年度認知症サポーター養成講座・・・小学校3回（海南小・海部小・実喰小） 中学校2回（海陽中・実喰中） 総合的な学習の時間における福祉に関する学習・・・小学校1回（海部小） 中学校1回（海陽中）							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○ともに学び、つながり、生活を見つめる力を育てるために、協働的な学習活動が活発になるよう、ねらいを明確にした教育を推進する。 ○児童・生徒が学校で学んだ知識や技術を進んで社会に提供し、将来にわたって地域福祉を進める主体となっていけるように意識・意欲をめざめさせることをねらいとしている。 ○引き続き小・中学校において認知症サポーター養成講座・福祉体験および外国出身者に対する日常生活のサポート講習会を開催する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

29

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	2 学校経営の充実							
事業名	児童生徒の生活習慣の改善							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	学校教育
事業目的	子どもに関する相談について、助言・指導の実施や、学校と行政との連携により相談支援体制を整えることで、児童虐待の発生予防、子どもの最善の利益の保障と、安心安全な暮らしを守る。 また、児童虐待防止に向け、人材育成および支援体制の強化を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	海陽町母子保健連絡協議会を調整機関として、児童生徒の情報の集約、多機関連携のためのネットワークの強化を図る。生活習慣病予備軍の減少。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	養護教諭と保健師の情報交換等の回数 (回)			1回	2回	2回	2回	2回
上段が目標値 下段が実績値				2回	2回	2回	2回	2回
成果指標 の達成状況 (Do)	○連絡協議会を2回実施 ○子どもの肥満についての勉強会（血糖値、糖尿病予防について）海南小・海部小・穴喰小 ○小学5年生中学2年生に心のアンケートを実施							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○小学5・6年生中学校全学年に血液検査を実施し、コレステロール・尿酸・中性脂肪が基準値を超えた児童・生徒保護者に対して、保健師や養護教諭が正しい生活習慣を身につけられるよう指導する。 ○中学校での肥満傾向生徒の個別指導を実施する。また保健師による生活習慣病予防教室を実施する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

30

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	生涯教育の振興と充実							
事業費 (千円)	R 5	3,688	R 6	2,426	R 7	3,164	所管種別	生涯教育
事業目的	子どもや成人、高齢者や障がい者など、地域住民の興味・関心に応じた各種多様な教室の開催や普及啓発を通して、学習・学びの機会を提供し、生涯教育の振興と充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	工芸館の体験事業（木工・染色・ワークショップ）、成人大学、生涯学習オンライン講座							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	開講講座数 3 講座増（回）			8	9	9	9	9
上段が目標値 下段が実績値				8	8	9	11	11
成果指標 の達成状況 (Do)	1. 木工体験 2. 藍染体験（4－11月） 3. 成人大学 4. 門松づくり教室 5. 貝殻ワークショップ 6. 箸作り体験 7. 流木モバイル作り体験 8. 茜染体験（12－3月） 9. マリーゴールド染体験 10. 藍建て教室 11. 生涯学習オンライン講座（7講座）							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	現在の開講数を維持出来るように努めながら、地域住民の興味・関心に応じた新しい企画も検討する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

31

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	公民館活動							
事業費 (千円)	R 5	44,880	R 6	13,288	R 7	18,264	所管種別	生涯教育
事業目的	地域の教育資源を活用し、地域づくりに主体的に参画しようとする人づくりを進めるために、地域拠点である公民館機能の強化、公民館活動の充実を図るための支援を行う。							
主な事業 内容 (Plan)	・共楽運動会（宍喰・海部・川東・浅川の4地区が実施で、川上は未実施。） ・交流球技大会（交流グラウンドゴルフ大会） ・公民館大会							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	
※各年度の 数値は	交流グラウンドゴルフ大会と公民館大会を 合わせた参加率10%増（%） （令和4年度に成果指標の見直し）		-	-	5	7	10	
上段が目標値 下段が実績値			-	-	9	22	-16	
成果指標 の達成状況 (Do)	・交流グラウンドゴルフ大会【申込人数：R4 85人、R5 76人、R6 65人、R7 58人】 ・公民館大会【アンケート提出人数：R4 96人、R5 122人、R6 157人、R7 94人】 ・合計人数【R4 181人、R5 198人、R6 222人、R7 152人】 令和7年度は、公民館大会に当年度県公連総会・職員研修会で講演された講師をタイムリーに招くことができ、伝統文化継承・地域活性化等補助金事業を実施した分館からの事例報告と二本立てにして内容の充実を図ったが、参加人数の増加にはつながらなかった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	公民館機能が発揮され、公民館活動の活性化、発展につながるように支援していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

32

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	伝統文化継承・地域活性化等補助金							
事業費 (千円)	R 5	1,746	R 6	1,916	R 7	2,477	所管種別 生涯教育	
事業目的	町民の自主的な地域活動の促進を図るため、伝統文化継承や地域活性化につながる社会教育活動、または地域的な共同活動（以下「地域活動」）を行う分館に対して、その活動に要する経費の一部を補助する。							
主な事業 内容 (Plan)	【事業区分】 ①伝統文化継承・地域活性化（15分館実施） ・盆踊りや左義長の用具の整備 ・秋祭りの用具の整備等 ・こいのぼりを活用した地域活性化 ②地域的な共同活動（26分館実施） ・環境整備活動 ・防災訓練に必要な備品購入 ③その他（12分館実施） ・避難所運営訓練 ・高齢者や子どもなどが集まり易い施設の軽微な環境整備							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	実施した分館の率40%➡60%➡65% ※全90分館			—	—	40	60	65
上段が目標値 下段が実績値				—	—	43	49	59
成果指標 の達成状況 (Do)	令和5年度からの新規事業である。地区公民館5館がいずれも事業の周知に早めに取り組んだことで前年度より増えたが、目標値には届かなかった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	それぞれの地域に根差した分館活動の活性化を推進するために、目的に掲げた社会教育活動や共同活動を支援していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

33

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	社会教育施設の充実（公民館・体育施設も含む）							
事業費 (千円)	R 5	14,875	R 6	39,342	R 7	73,615	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	海南文化村・公民館・体育施設等の町社会教育施設の維持管理や利用促進に努め、地域住民の自主的な社会教育の推進・充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	町社会教育の拠点施設である海南文化村を中心に、公民館施設や体育施設などの維持管理や利用促進に努め、住民が社会教育活動へ参加しやすい環境づくり等に取り組む。 阿波海南文化村がDMVの始発駅であるため、各施設において来場者が利用しやすい環境づくりに、引き続き取り組む。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	社会教育施設の点検回数			1	2	2	2	2
上段が目標値 下段が実績値				1	2	2	2	2
成果指標 の達成状況 (Do)	巡回・点検及び修繕等を行うことにより、各施設（設備）の機能を適正な状態に維持管理し、運転機能の確保を行う。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	社会教育施設の維持管理や利用促進等に努め、地域に根ざした社会教育活動拠点の充実を図る。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

34

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実							
施策	1 生涯学習の振興								
事業名	地域づくりに取り組む人材や団体の育成								
事業費 (千円)	R5	0	R6	0	R7	0	所管種別	生涯教育	
事業目的	地域住民が主体となって生涯学習を継続的に推進することができるよう、人材や団体の育成に努める。								
主な事業 内容 (Plan)	町または町内団体(公民館・婦人会・文化協会など)による活動・研修								
成果指標 の状況	成 果 指 標 名				R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	生涯学習の充実を図るための人材・団体育 成集会（回）				1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値					3	4	4	4	4
成果指標 の達成状況 (Do)	婦人会による研修会などの実施 4回(運動会・人権学習会・マリーゴールド染め体験・グラウンドゴルフ大会)								
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価								
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)							
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)							
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)							
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	地域の担い手が今後減少することを踏まえ、新たな担い手の創出のために育成の場やきっかけの場を町全体で用意していくことが必要となる。また自らが学べる場所の創出も必要となる。 具体例として、文化館ホール之音響や照明の操作ができる人材を創りたい。					
	○	継 続							
		縮 小							
		見 直 し							
		休 廃 止							

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

35

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	グローバルな人材の育成（ALT・CIRの活躍）							
事業費 (千円)	R 5	790	R 6	1041	R 7	961	所管種別	生涯教育
事業目的	児童生徒を含めた町民が国際的視野を持つためにイベント等を実施する。							
主な事業 内容 (Plan)	・国際交流イベント・講座の実施 ・英会話教室の開催 ・英語や海外文化を学習するためのホームページ・動画作成 ・町の中で英語に触れられるよう英語標記の設置							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	イベント・講座等の実施回数 (回)			12	12	12	12	12
上段が目標値 下段が実績値				3	19	37	45	42
成果指標 の達成状況 (Do)	・英語イベント（ハロウィン・Global Weekend等）4回／地域イベント（ほたるまつり）1回 ・グローバルカフェ 32回 ・地域活動（いきいきサロン）5回 ・HP(Global Kaiyo)活用 ・翻訳業務…民間企業ホームページ翻訳等							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・各種イベントの実施回数とスタッフの負担を考え、無理なく継続できるように調整していく。 ・地域での活動がグローバル教育の中でどのような役割を持つのか検証し、見通しのある計画にしてい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

36

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	地域における福祉教育の充実							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	生涯教育
事業目的	児童生徒の健全な育成を進めるとともに、地域住民の学びを通じて地域福祉の推進を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	・認知症サポーター研修 ・思春期講演会 上記 研修会等がスムーズに実施できるよう、教育委員会より支援する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	福祉教育の講座やイベントの開催数 (回)			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				5	8	8	11	11
成果指標 の達成状況 (Do)	・各中学校において、認知症サポーター研修を実施した。(小3回・中2回) ・思春期体験学習(小3回・中1回)、思春期講演会(中2回)を実施した。 ・保護者向けに実施した生き心地のよい町アンケートの報告会を実施した。(3回) (実施主体：長寿福祉人権課・子どもあゆみ保健課)							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○母子保健連絡会等に参加し、福祉部門と情報共有を行う。 ○引き続き、小・中学校で認知症サポーター養成講座、体験学習を開催する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

37

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	1 生涯学習の振興							
事業名	挨拶や声掛けによる教育の充実							
事業費 (千円)	R 5	30	R 6	30	R 7	30	所管種別	生涯教育
事業目的	学校教育に対して、住民や保護者が協力したいことと、教職員が地域に求めていることの主な共通点の中に挙げられている「登下校の見守り・声かけ」を推進し、日常生活における底辺からの教育環境の充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	○スクールガードリーダー及び学校が年間を通して、挨拶や声かけによる教育を行っている。 ○海陽町少年を非行から守る母の会も、挨拶や声かけを随時行っている。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	地域におけるあいさつ運動の実施率（％）			100	100	100	100	100
上段が目標値 下段が実績値				100	100	100	100	100
成果指標 の達成状況 (Do)	○スクールガードリーダー及び小学校が一年間、挨拶や声かけを行った。 ○海陽町少年を非行から守る母の会も、挨拶や声かけを随時行った。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	家庭教育で重視していることの最上位に「あいさつや行儀、礼儀作法」が挙げられている。小・中学校の教育に対して協力したいこと、また地域に協力してほしいことにおいて「登下校の見守り・声かけ」が上位に挙げられているように、児童生徒の健全育成に欠かせない挨拶や声かけは、今後とも推進することが必要である。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

38

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3 館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	海陽町文化協会							
事業費 (千円)	R 5	771	R 6	1,412	R 7	725	所管種別	生涯教育
事業目的	本会は、海陽町に所在する芸術文化団体相互の連絡を密にし、芸術文化の高揚に努めるとともに、町民文化の融和と交流を図り、豊かな郷土文化の創造と発展に寄与する。							
主な事業 内容 (Plan)	○海陽町文化協会ギャラリー（作品展示）／場所：工芸館第2工房 4月【俳句】5月【写真】6月【写真】10月【俳句】11月【染色】 ○海陽町文化協会祭（作品展示）／阿波海南文化村(海南文化館・工芸館)(5/3～5/6) ○海陽町文化協会祭（芸能発表会）／阿波海南文化村(海南文化館ホール)(6/8) ○視察研修旅行／神戸ポートミュージアム内水族館（アトア）（兵庫県神戸市）・神戸市立博物館 の「阪神・淡路大震災30年 大ゴッホ展 夜のカフェテラス」（兵庫県神戸市）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	団体会員ギャラリー作品展示会の開催数 (回)			6	6	6	6	6
上段が目標値 下段が実績値				8	10	8	6	5
成果指標 の達成状況 (Do)	○海陽町文化協会ギャラリー（作品展示）は、基準値を設定した令和元年度当初は1団体当たり、 2月毎にローテーションして全6回としたが、本年度は1団体当たり、1月毎にローテーション し、5回実施した。 ○開催数は目標値を下回った。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等 大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	海陽町文化協会祭の運営は、主催者が主体となって、作品展示や 芸能発表会を実施できるように努める。 団体会員ギャラリー作品展示会の開催回数が年々減少している。 一部利用団体から、入口で靴を脱ぐ手間が来客を減らしている要 因の一つになっているとの意見がある。対策の一案として、三幸 館の空いている壁面を活用した展示について検討している。				
		継 続						
		縮 小						
	○	見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

39

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3 館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	文化館の運営の充実							
事業費 (千円)	R 5	65,648	R 6	56,074	R 7	81,228	所管種別	生涯教育
事業目的	教育・文化・生涯学習活動の推進を図ると共に、各種イベントなどを企画し文化館の利用促進と町民文化の振興に寄与する。							
主な事業 内容 (Plan)	文化協会祭、文化村まつり、文化祭、成人式、公民館大会、映画上映会、生涯学習講座等、各種イベントを開催し、地域の活性化と共に魅力ある町づくりに寄与する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間利用者数（人数）			10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
上段が目標値 下段が実績値				4,482	8,580	11,263	10,917	9,614
成果指標 の達成状況 (Do)	目標の一万人には届かなかったが、各種イベントが順調に開催され、九千人を超えた。近年は高水準を維持している。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	今まで開催してきたイベント等だけでなく、生涯学習の充実や魅力ある講座など新しいものを取り入れる事により、文化館の利用促進につなげ、目標達成、拡充に努める。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

40

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	博物館の運営の充実							
事業費 (千円)	R 5	11,314	R 6	11,653	R 7	3,268	所管種別	生涯教育
事業目的	海陽町の文化・歴史、または芸術に興味関心を持っていただくための事業。 海陽町の文化財、他市町村や他県の文化財との比較や関連性を取り上げて企画展を開催する。 他にも、関連イベントやワークショップ、出張講演や講演会等も含める。							
主な事業 内容 (Plan)	○年3回の企画展開催 ○企画展関連イベント（各企画展につき1～3回程度） ○年3回の海部自然・文化セミナー（徳島県立博物館との共催事業） ○年3回の古文書の読み方講座							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	年間イベント開催数			15	15	15	15	15
上段が目標値 下段が実績値				8	11	16	15	10
成果指標 の達成状況 (Do)	令和7年度の博物館のイベントは企画展2回（「ふるさとの宝 海部拵」「海部城の瓦」）と、常設展示室の入れ替え（芝遺跡遺物の展示）を行った。「企画展関連イベント」は「ふるさとの宝 海部拵」で、柄巻に関するイベントを実施。海部自然・文化セミナーと古文書の読み方講座はそれぞれ3回ずつ開催した。他に、みなみ阿波観光局主催ツアーにおいて協力を行った。以上で、合計10回のイベントを開催した。 多良古墳群調査の実施により、博物館活動サイクルを一部変更が余儀なくされ、企画展の実施を春・夏・冬を目安に実施することとしている。一方、多くの町民が多良古墳群の調査の進展に興味がある状況で、問い合わせも多いことから今後、調査結果を整理しながら、調査内容を適度に発表できるような年間計画を立てていきたい。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・企画展を目的とした来館者を増やすことを目標に、企画展内容や実施するイベントについて精査して計画を立てていく。 ・毎年行っている好評なセミナー・講座については引き続いて継続を行う。 ・感染症対策で試みたオンライン配信など、便利なものは引き続き実施していく。 ・多良古墳群の調査結果の発表や、関連するイベントの実施を行っていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

41

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3 館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	図書館の運営の充実							
事業費 (千円)	R 5	51,566	R 6	54,508	R 7	45,984	所管種別	生涯教育
事業目的	図書や資料等の収集・整理・保存を中心として、館内展示・読書会・移動図書館車運営、読書バリアフリー法に基づく点字図書や音声・映像ライブラリー充実等により、地域住民の読書教育を推進する。また、図書館DXにより、学校図書館との連携やデジタルえほん室等の運営を充実させ、全年齢向けのICT教育の提供に努める。							
主な事業 内容 (Plan)	1. 貸出業務（館内貸出、相互貸借、移動図書館、団体貸出、学校行間貸出） 2. レファレンスサービス 3. 予約・リクエストサービス 4. コピーサービス 5. ホームページ運営 6. ブックスタート事業（乳児） 7. マガジンリサイクル 8. 特設コーナー設置 9. しゃべらん会読み聞かせ 10. 海部公民館まちライブラリー 11. 阿南図書館電子書籍貸出協力 12. 学校図書館システム支援 13. おはなし会開催 14. 児童生徒絵画等作品展示 15. デジタルえほん室運営							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	町民一人における年間平均貸出冊数（冊）			11	11	11	11	11
上段が目標値 下段が実績値				9.6	9.0	8.3	8.7	8.3
成果指標 の達成状況 (Do)	・貸出状況 貸出総冊数 65,233冊（6年度 70,450冊） 1人あたり貸出冊数 8.3冊（6年度 8.7冊）							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	貸出総冊数は、減少傾向にある。その要因として、移動図書館車を利用する小学生の児童数減少や、中高生の読書率の継続的低迷が考えられる。今後は、教育のうえでも大きな課題である中高生の読書率向上のため、全力で企画や機会提供に当たり、中高生本人たちからもあらゆるアイデアを募集する。またデジタル絵本や各種メディアを活用し、読書につなげる企画などを実行したい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

42

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3 館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	文化館自主事業							
事業費 (千円)	R 5	1, 232	R 6	1, 604	R 7	1, 320	所管種別	生涯教育
事業目的	学校や地域、関係機関と連携を図り、優れた芸術・文化を鑑賞する機会を提供することで、地域住民の自主的な文化・芸術活動の推進を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	・文化村まつり（スラックライン、シャボン玉など） ・映画上映会『フライ！』『黒の牛』『ふつうの子ども』 ・児童青少年演劇地方巡回公演（あやうし！ズッコケ探検隊） ・華の名曲セレクション（天童よしみ・モト冬樹・N響団友ポップスオーケストラ）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	自主事業開催数 行事回数 2 回増（回）			5	5	5	5	5
上段が目標値 下段が実績値				3	4	7	8	6
成果指標 の達成状況 (Do)	・文化村まつり 約750人 ・映画上映会 『フライ！』170人 『黒の牛』182人 『ふつうの子ども』100人 ・児童青少年演劇地方巡回公演 264人 ・華の名曲セレクション 391人							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も海南文化館のホール設備を活かしたイベントを企画し、優れた芸術・文化を鑑賞する機会を提供する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

43

基本方針		4 学び合いが町と人をつくる生涯学習の充実						
施策	2 3 館協働による連携した活動や社会教育と学校教育の連携による地域力活用の推進							
事業名	阿波海南文化村祭							
事業費 (千円)	R 5	818	R 6	960	R 7	400	所管種別	生涯教育
事業目的	海陽町文化協会祭と合わせて開催し、町の歴史や文化遺産を活用した各種イベントを実施することで、町内外の参加者に郷土の歴史・文化などの普及啓発を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	ゴールデンウィークに子どもを対象としたイベント「文化村まつり（公演、縁日、防災体験、移動図書館車など）」を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	来場者数 イベント参加率 20%増 (人)			1200	1200	1200	1200	1200
上段が目標値 下段が実績値				20	1000	1000	1000	1000
成果指標 の達成状況 (Do)	5月3日にスラックライン、シャボン玉をメインの出し物とした野外イベント、5月4日に映画『フライ！』の上映会を実施。また両日ともグローバルスポーツイベント（かけっこ教室、なわとび教室など）を同時開催し、合計で約1000人の来場があった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	次年度以降も子どもが喜ぶ内容を企画し、5月の大型連休にあわせて実施する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	44
基本方針		5 地域ぐるみで生き抜く力をつける						
施策	1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底							
事業名	防災教育の推進							
事業費 (千円)	R 5	60	R 6	42	R 7	102	所管種別	防災教育
事業目的	学校における防災教育の充実を図り、災害が発生した場合に、自らの身を自らで守れるよう児童生徒の防災力を育む。□							
主な事業 内容 (Plan)	○地震等の災害を防止軽減するための時間帯に応じた具体的な対処行動を避難訓練を通して、児童生徒によく理解させ、しっかり身につけさせる。 ○毎年学校防災管理マニュアルの見直しを図るとともに、年間計画に、防災計画、避難訓練を位置づける。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校における防災訓練の年間実施回数 (回)			5	5	5	5	5
上段が目標値 下段が実績値				5	6	5	5	5
成果指標 の達成状況 (Do)	・地震・津波・火災発生時の対応訓練の実施 ・水難救助訓練の実施。（人工呼吸・AEDの使い方） ・消火訓練の実施。（消火器の使い方・煙体験） ・町防災避難訓練への参加。（12月実施）							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○防災訓練実施にあたり、学校・地域等の実情に応じて、可能な限り地域等と連携した総合的な訓練を行うよう指導していく。 ○自分たちのくらしや命を守るための自治体の取り組みについて理解を深めたり、体験を通して災害の怖さを理解することができた。自分の命は自分で守れるよう継続的な防災訓練等を積み重ねていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

45

基本方針		5 地域ぐるみで生き抜く力をつける						
施策	1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底							
事業名	子どもあゆみ活用事業							
事業費 (千円)	R 5	250	R 6	317	R 7	217	所管種別	防災教育
事業目的	安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの一環として、防災教育に関する事業を実施する。							
主な事業 内容 (Plan)	今後発災が予測される南海トラフでの大地震などに備え、「命を守る」ことを学ぶために学校を中心とした防災教育を行う。 ・防災食の備蓄 ・防災学習（野外体験活動）他							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	町教委主催の防災教育の実施回数（回）			1	1	1	1	1
				1	2	1	2	1
成果指標 の達成状況 (Do)	海陽町防災訓練12月14日（日）に合わせて栄喰小学校防災デーを開催した。登校時を想定し、大津波警報の町内放送で各地区の避難所に避難をした。訓練終了後は、保護者と一緒に出前授業に取り組み、保護者と防災食の実食を行った。 また、栄喰小学校5年生を対象に防災講座及び炊き出し体験としてハイゼット米・カレーの調理、実食を行った。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○保護者の参加により、保護者の防災への関心が高まった。また、地域の方々に教わったり、家族で話し合ったりする機会をもつことで、地域全体の安全に対する理解が深まった。 ○ 防災教育は、地域・家庭・学校が一体となって取り組むことに意味があり効果がある。今後も地域や保護者・学校と協力しながら、訓練や研修を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

46

基本方針		5 地域ぐるみで生き抜く力をつける									
施策	1 主体的に判断し行動できる「生き抜く力」を育む防災教育の徹底										
事業名	東日本大震災の教訓復興教育										
事業費 (千円)	R 5	60	R 6	42	R 7	102	所管種別	防災教育			
事業目的	東日本大震災では学校の管理下と保護者への引き渡し後などに、多くの園児・児童・生徒が犠牲になった。また、多くの学校避難所が開設され、教職員は子どもたちの安全確保に加えて、避難所の開設と運営、学校再開業務と忙殺された。この震災の教訓を生かして、近い将来発生する巨大災害に備えるため、防災管理マニュアルを作成し、これを継続的に改善することが重要である。										
主な事業 内容 (Plan)	○地震等の災害を防止・軽減するため、時間帯に応じた具体的な対処行動を避難訓練を通して、児童生徒によく理解させ、しっかり身につけさせる。 ○毎年学校防災管理マニュアルの見直しを図るとともに、年間計画に、防災計画、避難訓練を位置づける。 ○東日本大震災から得た教訓を踏まえた教育プログラムの検討。										
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7			
※各年度の 数値は	各学校における復興教育の実施回数（回）			1	1	1	1	1			
上段が目標値 下段が実績値				1	2	1	1	1			
成果指標 の達成状況 (Do)	・震災の体験や教訓及び専門的知見を踏まえた地震・津波・火災発生時の対応訓練の実施。 ・町防災避難訓練への参加。（12月実施） ・教育委員会、南部防災館合同での防災学習。（12月実施）										
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価										
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)									
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)									
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)									
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)										
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○ 学校・行政機関と連携し避難場所の再確認をする。 ○ 日ごろから家庭や地域社会と密接な連携協力を図りつつ、児童生徒に対する防災教育を推進していく。 ○ 今後も地域防災活動を行う人材や将来の地域防災の担い手となる人材の育成に取り組む。							
	○	継 続									
		縮 小									
		見 直 し									
		休 廃 止									

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

47

基本方針		6 人権教育の推進						
施策	1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進							
事業名	同和教育の推進							
事業費 (千円)	R 5	2, 691	R 6	2, 176	R 7	2, 244	所管種別	人権教育
事業目的	学校・家庭・社会・関係機関等が時代の変化に応じた人権教育・啓発活動を推進することを通して、人権尊重の精神の寛容を図り、人権が共存する社会を築くことをめざす。							
主な事業 内容 (Plan)	学校・家庭・社会・関係機関等と密接な連携を図り、同和問題をはじめと日々の生活の中にある人権問題の解決を目指すとともに、真に人権の確立した社会の構築に努める。 すなわち、地域住民が交流を図ることを通して相互に理解を深め、地域が一体となったコミュニティづくりを進めて行きたい。そのための研修と住民への啓発を怠らず進めて行く。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	分館巡回人権学習会の実施回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				0	0	1	1	1
成果指標 の達成状況 (Do)	30会場で計283名の参加者があった。職員や教職員に対する事前研修会にも116名の参加があり、人権の啓発に関しては達成できた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も人権に関する事前研修会及び分館巡回人権学習会を積極的に行っていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

48

基本方針		6 人権教育の推進						
施策	1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進							
事業名	男女共同参画社会の実現に向けた学習活動への推進							
事業費 (千円)	R5	0	R6	0	R7	0	所管種別	人権教育
事業目的	男女共同参画社会の実現に向けて、男女・外国人・高齢者・子ども・性的マイノリティ等、様々な人権に関する問題に対し、学校・家庭・地域が一体となって、お互いを認め合い、尊重し合い、大切にされる社会の実現をめざす男女共同社会の構築を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	男女共同参画社会の実現に向けた人権研修会を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R3	R4	R5	R6	R7
※各年度の 数値は	男女共同参画社会実現の人権研修会の実施 回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				0	0	1	1	1
成果指標 の達成状況 (Do)	単独での男女共同参画社会実現のための研修会は実施していないが、分館巡回人権学習会や人権啓発映画会、人権講演会を実施し、広く学習の機会を設けた。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も、男女共同参画社会実現の人権研修会を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

49

基本方針		6 人権教育の推進						
施策	1 人権に関する多様な計画性のある学習活動、啓発の推進							
事業名	共生社会の実現に向けた学習活動への支援							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	320	R 7	312	所管種別	人権教育
事業目的	これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会の実現に向けて、ノーマライゼーションの考え方を基本に、障がいのある人もない人も互いの人権を尊重し合う教育の推進に努める。							
主な事業 内容 (Plan)	共生社会実現に関する人権教育研修会を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	共生社会実現に関する人権教育研修会の実施回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				0	0	1	1	1
成果指標 の達成状況 (Do)	令和8年2月1日（日）北朝鮮の拉致問題の『蓮池薫』氏による人権講演会を実施した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も、共生社会実現に関する人権教育研修会を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

50

基本方針		7 文化振興						
施策	1 文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進							
事業名	文化財保護・活用							
事業費 (千円)	R 5	1269	R 6	986	R 7	3744	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	文化財行政に対し参考となるべき意見を陳述していただくことによって、海陽町内の文化財行政の向上を図る							
主な事業 内容 (Plan)	・海陽町内にある指定文化財における現状変更についての審議及び情報共有 ・海陽町内の文化財に関する情報共有 ・その他文化財行政に関する調査・審議・情報共有							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	文化財保護審議会の開催回数（回）			3	3	3	3	3
上段が目標値 下段が実績値				2	3	3	3	3
成果指標 の達成状況 (Do)	定例となっている審議会の開催に加え、文化財の現地研修会などを行うことができ、恒例行事として根付いてきた。現地研修を行うことで我が町の文化財の状況を知ることができたため、今後も続けていきたい。 また、当町の活動ではないが海部郡文化財保護審議会連絡協議会、徳島県市町村文化財保護審議会連絡協議会等でも研修会が行われ、特に徳島県市町村文化財保護審議会連絡協議会においては、各市町村の審議会の事業報告や研修会の強化が行われている。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	審議会は文化財に対する審議だけでなく、委員同士や事務局の情報共有などの場としても活用し、文化財の効果的な活用方法について協議するなどしていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

51

基本方針		7 文化振興						
施策	1文化財に主体的に関わり、身近に感じ、魅力を広げる活動の推進							
事業名	地域文化伝承の語る仕組みづくり							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	海陽町内の地域文化を伝承する会の発足							
主な事業 内容 (Plan)	海陽町内の地域文化を伝承する会の発足に伴う調査研究及び検討							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	地域文化伝承の会の発足			検討	検討	検討	発足	発足
上段が目標値 下段が実績値				検討	検討	検討	検討	検討
成果指標 の達成状況 (Do)	地域文化に関係する団体の状況等確認し検討をする							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	○	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	地域文化に関係する団体の状況等確認し検討をする				
		継 続						
		縮 小						
	○	見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

52

基本方針		8 スポーツ振興						
施策	1 生涯スポーツ環境の充実							
事業名	スポーツ少年団助成							
事業費 (千円)	R5	405	R6	405	R7	405	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活発化を図り、青少年にスポーツを振興し、以て青少年の心身に健全な育成を資することを目的とする。							
主な事業 内容 (Plan)	スポーツ少年団への活動費助成（野球、バレー、ミニバスケットボール、卓球等）や年一回、スポーツ少年団フェア（町内一斉奉仕清掃）などの活動をしている。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R3	R4	R5	R6	R7
※各年度の 数値は	スポーツ少年団フェアの実施回数（回）			1	1	1	1	1
上段が目標値 下段が実績値				0	1	1	1	1
成果指標 の達成状況 (Do)	スポーツ少年団フェアで（栄喰地区一斉清掃）を実施した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	少子化によりクラブ運営においては厳しい状況が続いている。多くの選手を確保することや、場合によっては複数のクラブと連携して一つのチームを構成することなどが課題となっている。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

53

基本方針		8 スポーツ振興						
施策	1 生涯スポーツ環境の充実							
事業名	体育協会助成							
事業費 (千円)	R5	1,510	R6	1,510	R7	1,510	所管種別	生涯教育
事業目的	スポーツ振興のため、海陽町体育協会に対し補助金を交付することにより、各種スポーツ大会の開催、町民が生涯にわたりスポーツを行える環境づくりを行うことにより、町民の健康づくりの推進を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	活発な体育協会の活動が来ている。引き続き、各クラブの自主的な運営を促し、主催する大会等 のや参加者の増加をサポートをしていく。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	各種スポーツ大会の開催回数（回）			12	12	12	12	12
上段が目標値 下段が実績値				3	5	10	10	10
成果指標 の達成状況 (Do)	主なスポーツ大会 ・海陽町体協杯バレーボール大会 ・海陽町体育協会グラウンドゴルフ大会（海南・海部・穴喰） ・海陽町体協杯壮年野球大会 ・海陽町体協杯軟式野球一般大会 ・海陽町体協杯フットサル大会 ・海陽町体協杯バトミントン大会 他							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等 大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	クラブの主体性を尊重しながら、各種スポーツ大会の開催回数や 参加者を増やしていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

54

基本方針		8 スポーツ振興						
施策	1 生涯スポーツ環境の充実							
事業名	新春ふれあい駅伝大会運営							
事業費 (千円)	R 5	540	R 6	540	R 7	690	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	地域スポーツの振興として、駅伝大会を実施することにより、青少年の体力向上や、町内外を問わず普段交流のない年代が駅伝大会を通じて交流することができる。							
主な事業 内容 (Plan)	毎年1月の第3日曜日に100チームを上限として駅伝大会を実施。二部制で、一部は小学生男女、オープンのチームが走る。二部は中高生男女、一般、オープンのチームが走る。また、小学生男子・女子、中高生男子・女子、一般の5部門上位3チームと各区間の区間賞を表彰する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	新春ふれあい駅伝大会の参加チーム数 (チーム)			30	30	30	30	30
上段が目標値 下段が実績値				0	43	51	48	55
成果指標 の達成状況 (Do)	小学生男子10チーム、小学生女子5チーム、中高生男子15チーム、中高生女子5チーム、一般15チーム、オープン5チームの計55チームが参加した。（※申込は58チーム） また、第20回の記念大会のため、生光学園高等学校陸上競技部がゲストランナーとして参加した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	引き続き、多くのチームに参加してもらえよう、大会要綱等の見直しを行いながら、事業を運営していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

55

基本方針		8 スポーツ振興						
施策	1 生涯スポーツ環境の充実							
事業名	総合型スポーツクラブ							
事業費 (千円)	R 5	4, 000	R 6	4, 000	R 7	4, 500	所管種別	文化・スポーツ振興
事業目的	地域住民によって組織された自主的な総合型地域スポーツクラブの活動が、より積極的に展開することで、クラブの一層の充実・発展を図るとともに、クラブ活動を通じて生きがいのある生活と活力のある社会づくりを形成することを目的として総合型スポーツクラブの運営に対し、補助金を交付する。							
主な事業 内容 (Plan)	各種スポーツ教室（ボクササイズ、エアロビクス、キッズダンス等）、トレーニングジムの運営、イベント（名所ウォーキング、スポーツレクリエーションフェスタ等）、町からの委託事業（介護予防運動、健康相談・検診後の運動支援等）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	健康維持や体力づくり教室の実施回数 (回)			300	300	300	300	300
上段が目標値 下段が実績値				457	458	465	464	370
成果指標 の達成状況 (Do)	・子ども体力向上事業（キッズレクスports、コアトレ） 延べ230名参加 ・のんびりウォーク 17名参加 ・幼稚園巡回運動あそび教室 3歳児4歳児5歳児 ・かいよう元気体操（各公民館） 延べ635名参加 ・血圧計を一家に一台プロジェクト 79名 ・特定健診時運動アドバイス 29回							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	・スポーツを通じた青少年の健全育成に取り組むほか、地域のスポーツ指導者の育成に努め、子どもから高齢者まで幅広い世代にスポーツの楽しさを伝える。 ・クラブの活動を通して、地域住民の交流を深め、スポーツへの意識向上を図る。 ・またクラブ会員の更なる確保のため、引き続き、広報の充実や魅力的な事業を検討する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

56

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	教職員の指導体制と学校の支援体制充実							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	学校での会議や研修会のスリム化により、会議や研修会の時間短縮と質の向上を図り、教職員の指導力の向上と長時間勤務の実態を改善する。							
主な事業 内容 (Plan)	資料の事前配布や進行の工夫、会議の統合・廃止、終了時間の厳守、ペーパーレス化を図る。教職員が担うべき業務に専念できるよう、勤務時間管理の適正化や学校現場における業務改善、校務を情報化することによる効率化等、教職員の働き方改革を進める。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	教職員の経験年数や職務に応じた研修への参加率（％）			10%	10%	20%	20%	30%
上段が目標値 下段が実績値				10%	10%	14%	16%	20%
成果指標 の達成状況 (Do)	研修の機会を積極的に求めて、主体的に研修に努めた。 総合教育センターの「総合教材ポータルサイト」で、教材やグループ研の成果物などを、研修で活用した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○ICTを活用した教育活動の推進のため、学校において求められる立場、役割、資質・能力に応じた研修の実施等、教員のICT活用指導力の向上を図る。 ○校務支援システムやタブレットを活用することで、会議をペーパーレス化し、資料の準備時間や紙費用といったコストの大幅な削減と業務効率化を目指す。 ○総合教育センターが月1回オンデマンド配信で実施している、「まなびのサポートタイム」を活用し、研修に役立てる。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	57	
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上							
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上								
事業名	教職員の健康管理と働き方改革の推進								
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	教育基盤の整備	
事業目的	令和元年12月に給特法（公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法）が改正され、同法第7条に基づき定められた国の指針において、教育職員が正規の勤務時間外に在校等をする時間（在校等時間）の上限（原則：月45時間、年360時間）が定められた。								
主な事業 内容 (Plan)	時間外在校等時間の上限方針 原則として次に掲げる範囲内とする。 ① 1箇月について45時間 ② 1年について360時間								
成果指標 の状況	成 果 指 標 名				R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	教職員の超過勤務の時間を1箇月について45時間、1年について360時間以内とする。 (%)				100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値					73%	79.2%	80.2%	70.8%	58.3%
成果指標 の達成状況 (Do)	時間外在校等時間（月当たり平均時間） ・ 4月 小学校37.9 中55.4 ・ 8月 小学校 4.8 中16.1 ・ 12月 小学校29.4 中46.7 ・ 5月 小学校45.6 中61.4 ・ 9月 小学校37.6 中51.6 ・ 1月 小学校21.3 中48.5 ・ 6月 小学校42.3 中55.8 ・ 10月 小学校42.8 中56.8 ・ 2月 小学校30.0 中43.4 ・ 7月 小学校33.1 中46.3 ・ 11月 小学校33.3 中47.5 ・ 3月 小学校35.4 中42.5								
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価								
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)							
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)							
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)							
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)								
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○学校における働き方改革の一環として、夏季の長期休業中に学校閉庁日を設けて、教員が休暇を取得しやすい環境を整えて、教員の心身の健康保持を図る。 ○中学校部活動の地域展開。 ○教育支援員の充実や学校DXの推進などの環境整備を行う。 ○徳島県公立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（R8.3策定）に基づき、長時間勤務の是正、校務効率化の推進、外部人材の積極的活用等に取り組む。					
		継 続							
		縮 小							
	○	見 直 し							
		休 廃 止							

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

							評価番号	58
基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	部活動改革への対応の検討							
事業費 (千円)	R 5	0	R 6	0	R 7	0	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	令和8年度より、休日の部活動の段階的な地域展開を図ること等を踏まえ、部活動の地域展開を着実に実施するとともに、地域におけるスポーツ環境を整備し、子どもたちがそれぞれに適した環境でスポーツに親しめる地域社会を構築することを目的として、部活動の地域における受け皿の整備方策等について検討し実施していく。							
主な事業 内容 (Plan)	1. 休日の部活動の段階的な地域展開を実施するため、生徒・保護者・学校の意向等を踏まえながら、海部郡3町との連携の強化を図り関係者や地域と協議を進める。 2. 海部郡及び海陽町部活動地域展開推進協議会を定期的に開催し、今年度中の部活動地域展開（認定地域クラブ）の開始をめざす。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	・ 土日の部活動の地域展開			検討	検討	展開準備	一部展開	展開
上段が目標値 下段が実績値				検討	検討	検討	検討	展開準備
成果指標 の達成状況 (Do)	・ 海部郡部活動地域展開推進協議会及び海陽町部活動地域展開推進協議会を定期的に開催し、認定地域クラブの設立に向け協議を進めた。 ・ 令和7年 5月15日 第8回海陽町部活動の地域移行推進協議会 ・ 令和7年 8月19日 第9回海陽町部活動の地域移行推進協議会 ・ 令和7年11月10日 第10回海陽町部活動の地域移行推進協議会 ・ 令和8年 2月17日 第11回海陽町部活動の地域移行推進協議会 ・ 令和7年10月1日 第1回海部郡部活動地域展開推進協議会 ・ 令和8年 2月9日 第2回海部郡部活動地域展開推進協議会							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○地域人材（部活動指導員）の配置 ○生徒の輸送手段の確保（平日・休日） ○教員の働き方改革 引き続き学校の状況を鑑みて、地域展開推進会議にて関係者や地域と協議を進める。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

59

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	ICT教育の指導員の養成							
事業費 (千円)	R 5	495	R 6	1,760	R 7	1,689	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	ICTを活用した学習を行うことで、従来の学校教育では実現できなかった広がりを持った教育を実現する。また、教職員への支援としGIGAスクールサポーター及びICT支援員を配置することにより、整備された機器を最大限に活用した授業を展開する。							
主な事業 内容 (Plan)	ICT教育部会の設立 ・各学校情報主任が担当になり、必要に応じて会を開き情報の共有。 （校内UTM 無線LAN整備の検討・アップルペンの購入検討・持ち帰り学習向けの対応等 ） ICT支援員配置委託（R3～） ・学校におけるICT環境整備の設計、工事・端末等の使用マニュアル・ルールの作成・操作支援、校務システムの活用支援、メンテナンス支援、研修支援等（1企業配置） ・町雇用ICT支援員（1名）に対するサポート							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	町内ICT部会の実施回数（回）			5	5	5	5	5
上段が目標値 下段が実績値				4	4	3	3	3
成果指標 の達成状況 (Do)	令和7年度ICT教育部会実績 第1回ICT教育部会 令和7年7月29日 第2回ICT教育部会 令和7年11月17日 第3回ICT教育部会 令和8年3月9日 当該年度のICT教育関係の周知や作業についての役割分担を行った。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
	○	C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	ICT支援員を助教員枠で採用していることによる活用のしにくさが出てきている。来年度の配置に向けて、検討を行う。 定期である更新等の作業について、各職員や企業の役割分担を明確にしていく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

60

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	配慮を要する子どもへの支援体制の充実							
事業費 (千円)	R 5	-	R 6	115	R 7	-	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	学校教育になじめないでいる子どもに対して、I C Tの活用や関係機関の連携を深めることで、教育の質と機会均等を確保する支援体制の充実を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	○教室に入りづらい子どもが別教室からオンライン学習をうける。 ○病気等で休んでいる子どもとオンライン学習やタブレットを活用した学習支援を行う。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	I C Tの活用等による学習支援の実施率 (%)			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				40%	100%	100%	100%	100%
成果指標 の達成状況 (Do)	○学校教育になじめないでいる子どもに対してのI C T活用し、リモート授業等を行った。ただし、課題のある全ての子どもについてどのようなサポートが望ましいか把握することができなかった。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性	○	拡 充	今後の方針 (Action)	・校内教育支援センターをスムーズに利用できるよう周知を行い、運営のサポートを行う。				
		継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

61

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	特別支援教育の充実（巡回相談員の配置と活用）							
事業費 (千円)	R 5	53, 574	R 6	69, 046	R 7	74, 285	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	障がいにより特別な支援を必要とする児童生徒に対して、支援体制の整備促進を行い、将来的に社会に適応し、充実した生活を送ることができる力を育む。							
主な事業 内容 (Plan)	- 支援の必要な児童生徒の人数を把握し、町費助教員を配置する。 - 学校等の関係機関に対して研修会を実施し、特別支援教育の理解を促進し、対応を強化する。							
成果指標 の状況 ※各年度の 数値は 上段が目標値 下段が実績値	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
	町教育支援委員会で決定された 町費助教員と特別支援教育支援員の 配置率（％）			100	100	100	100	100
				100	100	100	100	100
	教育支援サポートチーム等での 研修会の開催（回）			0	1	1	1	1
				0	1	0	1	1
成果指標 の達成状況 (Do)	1対1対応が必要とされた児童生徒に対し、学校の状況やニーズに合わせ、町費教員を配置した。 - 特別支援に関するICTソフトや町に設置される第三の居場所事業についての説明会を実施した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今後の 取り組み の方向性		拡 充	今後の方針 (Action)	- 教員のニーズを把握し、研修の機会を作っていく。 - 適正数を把握する方法を教育支援委員会前に相談し、委員会へ導入する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

62

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	1 新学習要領などの指導体制の再構築と働き方改革に伴う質の向上							
事業名	教育委員会表彰							
事業費 (千円)	R 5	108	R 6	156	R 7	161	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	海陽町における文化・体育の振興発展に功労があり、海陽町の名誉を高め、町民に明るい話題を提供するなど、功績のあった者を表彰する。町の学業や文化・スポーツ等の振興に貢献した個人・団体を表彰することで、地域住民のチャレンジ精神や積極的に学習やスポーツに取り組む意欲を高める。							
主な事業 内容 (Plan)	○海陽町文化・体育賞等にふさわしい候補者を事務局の方でリストアップする。（9月末日限） ○選考委員会に諮り、リストアップした候補者の中から受賞者を決定する。（10月後半頃） ○受賞者の功績を称え、表彰式を挙行し、受賞者に記念品を贈呈する。（とくしま文化推進期間中 [11月3日から11月第3日曜日まで]の時期）							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	文化・体育賞表彰者数（人・団体）			2	2	2	2	2
上段が目標値 下段が実績値				2	4	0	3	3
成果指標 の達成状況 (Do)	○令和7年10月24日 令和7年度海陽町文化・体育賞等選考委員会を開催し、委員会において、文化功労賞1名・1団体、スポーツ奨励賞1団体の表彰が決定した。 ○令和7年11月25日 令和7年度海陽町文化・体育賞表彰式を開催した。							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	選考委員から、被表彰対象者の範囲を広げてはどうかとのご意見をいただいている。 令和8年度は選考基準の見直しを検討したうえで、候補者をリストアップし、選考委員会に諮りたい。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

63

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	2 学校経営の充実							
事業名	学校施設整備							
事業費 (千円)	R 5	42, 209	R 6	24, 648	R 7	19, 439	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	児童生徒の通う学校施設の維持管理及び運営を適切に行い、安全・安心な教育環境を将来に渡って提供する。							
主な事業 内容 (Plan)	学校施設個別計画に基づき修繕及び改修を実施する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校施設個別計画に基づく修繕、改修等の 実施箇所（箇所）			2	2	2	2	2
上段が目標値 下段が実績値				2	3	5	3	3
成果指標 の達成状況 (Do)	尖喰小学校体育館屋根防水工事 海南小学校理科室エアコン設置工事 かいようこども園空調機新設工事							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
	○	A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も、学校施設個別計画に基づき、修繕及び改修を実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

64

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	2 学校経営の充実							
事業名	衛生環境の向上（洋式トイレの整備）							
事業費 (千円)	R 5	22040	R 6	5546	R 7	68162	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	様式トイレの整備を行うことにより、衛生環境の向上を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	各小中学校の和式トイレを洋式トイレに改修する。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	学校の洋式トイレの整備率（％）			30%	30%	35%	40%	45%
上段が目標値 下段が実績値				26%	26%	35%	35%	45%
成果指標 の達成状況 (Do)	海南小学校トイレ改修工事 実喰中学校トイレ改修工事							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
		D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も、衛生環境向上のため、様式トイレの整備を計画的に実施していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

65

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	3 教育機会の確保							
事業名	就学援助							
事業費 (千円)	R 5	5,999	R 6	5,842	R 7	5,695	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	経済的理由によって就学が困難な家庭に就学援助費を支給することで、すべての児童生徒の学びを保障し、義務教育の円滑な実施を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	町内小・中学校に在籍する児童・生徒の保護者が生活保護をうけている。もしくは世帯全員の収入額が教育委員会の定めた認定基準額を下回る場合対象となる。 認定された保護者に対し、学用品費※、新入学学用品費※、校外活動費、修学旅行費、給食費、学校病医療費、（※が付記された援助費項目以外は実費）を支給する。 当事業は一部が国の補助金対象事業となっている。 新入学児童生徒準備費は入学前支給を行う。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	就学援助費支給率（％）			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%	100%	100%
成果指標の 達成状況 (Do)	要保護世帯6世帯9人・準要保護45世帯66人（R8.3.31現在） 支給合計 4,911,741円 新入学児童生徒準備費 ・小学校新入学 6人 342,360円 ・中学校新入学 7人 441,000円 支給合計 783,360円 ◎支給総合計 5,695,101円 国庫支出金（要保護児童生徒費補助金）1/2補助 学用品費等 小学校 107,000円・中学校87,000円 医療費 小学校 0円 ◎補助金合計 194,000円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も就学が困難な児童生徒の保護者に対して就学援助費を支給し、経済的支援を行う。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

66

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	3 教育機会の確保							
事業名	子どもあゆみ活用事業活用							
事業費 (千円)	R 5	13,744	R 6	13,640	R 7	16,099	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	小中学校の給食費補助や中学卒業祝金（第3子以降）等の経済的支援など、安心して子どもを生み育てることができる環境の整備を推進する。							
主な事業 内容 (Plan)	・小学校・中学校学校給食費補助（地産地消分・小6中3地産地消特別分・給食費） ・第3子以降給食費補助 ・こども園給食副食費助成 ・新小中1年生体操服購入費助成 ・第3子以降中学卒業祝金 ・タブレット端末保険 他							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	第3子以降の園児・児童・生徒への「給食費」補助率（%）			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%	100%	100%
成果指標 の達成状況 (Do)	・給食費補助・・・延べ人数 小学校 2,546人 中学校 1,523人 9,251,006円 （区域外特別支援就学者）延べ55人 99,000円 合計 延べ4,124人 9,350,006円 ・第3子以降給食費補助・・・74人 883,669円 ・こども園給食副食費助成金・・・1,871,800円 ・新小中1年生体操服購入費助成・・・61人 422,600円 ・第3子以降中学卒業祝金・・・10人 500,000円 ・タブレット端末保険・・・807,303円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	今後も子どもを持つ保護者、多子世帯の保護者に対し経済的支援を行い、少子化対策の施策として継続していく。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

67

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	3 教育機会の確保							
事業名	町奨学金貸与・おかえReターン海陽奨学金支援制度							
事業費 (千円)	R 5	10,066	R 6	7,459	R 7	7,647	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	1. 経済的理由により修学が困難な者に対して奨学金を貸与する。 2. 返還助成制度により、本町へのUターン及び定住、地元就職の促進を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	1. 町奨学金貸与について ・海陽町奨学金貸与条例に基づき、毎年4月初旬までに申請、4月下旬審査会、5月上旬決定通知、5月中旬誓約書等の提出後、5月末までに1回目の貸与、以後4回に分けて貸与。 2. おかえReターン海陽・奨学金支援制度について ・Uターン就職者の奨学金返還を支援する制度で、4年制大学卒業者の場合、年間最大24万円を最長10年間助成する。対象奨学金は町奨学金、日本学生支援機構奨学金、県社会福祉協議会教育支援資金の3種類。特色としては、海部高校卒業生も対象としている。							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	おかえR e ターン海陽奨学金支援制度累計 申請者人数（人）			16	18	20	22	24
上段が目標値 下段が実績値				16	16	14	10	11
成果指標 の達成状況 (Do)	1. 町奨学金貸与について…奨学生審査委員会（4/28）で審査 貸与決定者1名（内訳（大学等1名3年間）・継続貸与者8名（大学等8名） （高校等 月額15,000円・大学等 月額50,000円） 令和7年度貸与額合計 5,400,000円 2. おかえR e ターン海陽奨学金支援制度について…認定者（交付決定者）11名 助成金 2,247,000円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
		B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	○	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)						
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	1. 奨学金貸与は、広報等で経済的支援である奨学金貸与制度の周知を図る。 2. 奨学金返還支援助成制度は、更に制度の周知徹底を図るため、海部高校のオープンキャンパスや入学説明会等でチラシを配布し事業の周知を行うなど新規申請者の獲得、及び定住・定着に向けて取り組む。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

令和8年度（令和7年度決算）事務事業評価シート

評価番号

68

基本方針		9 学校指導体制の充実と指導の質の向上						
施策	3 教育機会の確保							
事業名	通学補助金交付							
事業費 (千円)	R 5	469	R 6	176	R 7	300	所管種別	教育基盤の整備
事業目的	遠距離通学に要する費用を援助することで、家庭の経済的負担の軽減と児童生徒の通学時の安全を図る。							
主な事業 内容 (Plan)	「海陽町遠距離児童、生徒通学費補助金要綱」の規定により補助を行う。 (1) 小学校4km以上の遠距離通学の児童に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。 (2) 中学校6km以上の遠距離通学の生徒に交通機関の運賃に対して助成金を支払う。 (3) 上記遠距離通学者で、自転車通学が認められる児童生徒には、自転車購入費に対して助成金を支払う。 (4) 次の〈1〉～〈3〉の全てに該当する者に助成金を支払う。 〈1〉海陽町教育委員会が指定校変更を認めた者 〈2〉校区をまたいでの遠距離者（距離数は従来どおりで交通機関を利用） 〈3〉海陽町教育委員会が助成を適当であると判断した場合							
成果指標 の状況	成 果 指 標 名			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
※各年度の 数値は	小学校4km以上・中学校6km以上の通学費補助率（％）			100%	100%	100%	100%	100%
上段が目標値 下段が実績値				100%	100%	100%	100%	100%
成果指標 の達成状況 (Do)	・ 栄喰小学校 バス代助成（回数券・定期券購入） 1名 12,600円 ・ 海陽中学校 バス代助成（定期券購入）川上地区 3名 287,280円							
一次評価 (内部) (Check)	事 業 の 達 成 度 評 価							
		A 目標達成率100%超(目標を超えて達成している)						
	○	B 目標達成率80%以上～100%(目標を達成、もしくは概ね達成している)						
		C 目標達成率60%以上～80%未満(目標達成はやや不十分であり、手法の変更等大幅な改善を要する)						
	D 目標達成率60%未満(目標達成は不十分であり、事業の根本的見直しを要する)							
今 後 の 取 り 組 み の 方 向 性		拡 充	今後の方針 (Action)	○該当者に対し円滑に補助決定を行うことができた。今後も遠距離から通学している児童生徒の保護者の負担軽減のため、現状のまま事業を継続する。				
	○	継 続						
		縮 小						
		見 直 し						
		休 廃 止						

4. 外部評価委員会の意見

(1) はじめに

今年度は、一次評価を実施した68事業（P7～P74参照）の中から抽出した海陽町教育委員会主要施策等の10事業（P2表3参照）について、各事業所管係から事業目的、事業内容、一次評価、今後の取り組みの方向性についてヒアリングを実施し、事業の進捗と事業実績の一次評価が適切かどうかを検討した。

評価を行った10の主要事業それぞれについて、二次評価と所見を述べさせていただく。また、海陽町教育委員会会議の活動状況や海陽町教育委員会の実施する点検及び評価に関しての方法や内容、教育委員会の活動状況、評価シートの表記法についても意見(総評)を述べさせていただく。

(2) 抽出した10事業の一次評価と二次評価と意見

No	評価番号	事業名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
1	4	地元高校魅力化推進補助	B	拡充	B	拡充
意見						
人口減少が急速に進む中、定員の維持と高校の存続を図るため、海外・国内短期留学や英検受験料補助、部活動の支援など特色ある教育を推進している。令和7年度の入学人数は95名となり、地元の生徒減少が続く中でもおよそ100名の規模を維持し一定の事業効果が見られる。部活動においても硬式野球部やバスケットボール部の活躍など目覚ましい成果が出ている。 海外短期留学や国内短期留学などに参加した生徒が、海部高校や小中学生に留学体験を発表する機会をしっかりと設けることが重要である。また、県外・郡外からの入学児については、祖父母などの親族のつながりや地元の縁が背景にあるケースも見られる。そうした事例などを県内外に広報してほしい。さらに、新しく整備された高校生等の居場所についても、学校や部活動終わりの生徒たちが安心して学習やバスの待ち時間を過ごせる場として、今後の有効活用を期待している。						

No	評価番号	事業名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
2	11	グローバル教育の推進	C	拡充	B	拡充
意見						
児童生徒が使える英語力の育成と、グローバル化に対応できる人材の育成を目的とし、小中学校へのネイティブスタッフの配置や、英語イベントの実施、英検受験料の補助などを積極的に行っている。さらに、地域活性化起業人制度を活用した「QQイングリッシュ」からネイティブスタッフの派遣により、かいようこども園でのイメージ保育の開始や、海南小学校1年生を対象とした放課後英語プログラムなども導入されていることは評価できる。						

成果指標である中学３年生の英検３級取得率は３９％となり、前年度より上昇したものの目標値には届いていない。これは多くの生徒が３級より下の級を受検していることが主な要因である。数値としての取得率は目標に届いていないものの、かいうこども園でのイメージ保育や小学校での放課後プログラムなど新しい取り組みが着実に進められている。また、事業費も増額されている中で、子どもたちが自然に英語に慣れ親しみ、会話ができるような環境づくりやさらなる充実を図ってほしい。 成果指標が達成できず一次評価はＣであるが、グローバル教育の進捗や成果を総合的に勘案して二次評価をＢとした。						
---	--	--	--	--	--	--

No	評価番号	事業名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
3	12	ICT教育の推進	D	拡充	C	拡充

意見

ICT環境の整備を進め、児童生徒の学力向上やコミュニケーション能力、情報活用能力の育成を図っている。電子黒板の導入（３年目）や各校のVRゴーグルの整備、部活動の遠隔指導システム、AIを活用したオンライン教材（キュビナ）の導入、さらに、新しいiPad Airなど更新・導入予定など、先進的な取り組みが展開されている。

成果指標（AIドリルの平均回答数など）では、自己評価がD評価となっているが、これらはICT活用のほんの一部分の成果指標に過ぎず、授業において電子黒板やタブレットが日常的に活用されることで、子どもたちが手を挙げて発表する機会が増えたり、教師が黒板に文字を書き続ける時間が減って子どもに向き合う・寄り添う時間が増加するなど、現場での大きなメリットが生まれており高く評価できる。今後は、一部のモデル校や特定の熱心な教員だけに頼るのではなく、町内のどの学校・どの教員であっても、同様の指導や支援ができるような実践的な研修体制やサポート体制を構築し、保護者が望む質の高いICT教育を定着させていってほしい。

成果指標が達成できず一次評価はDであるが、ICT教育の進捗や成果を総合的に勘案して二次評価をCとした。

No	評価番号	事業名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
4	19	放課後子ども教室の運営	B	継続	B	継続

意見

放課後に地域住民である指導員等の見守りのもとで安心な居場所を提供し学習活動や交流活動を推進している。対象は小学１年生から６年生で、海南こども館、奥浦老人福祉センター、穴喰小学校などで実施され、登録児童数は１９９人に上るなど概ね達成状況にある。

共働き世帯などの保護者にとって、放課後に子どもの学習や安心・安全など見守りをしっかりと見てくれるこの教室が非常に大きな支えとなっており、なくてはならない存在になっている。一方で、指導者の高齢化や地域とのつながりの薄れが課題となっており、学習時の指導方法について、学校と運営現場の間でしっかりとした情報共有や連携を図りながら、安全管理と子どもたちが安心して過ごせる環境を維持してほしい。

No	評価 番 号	事 業 名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
5	3 1	公民館活動	C	継続	C	継続

意見

住民の健康づくりや交流を目的として、球技大会やグランドゴルフ大会、公民館大会などを実施している。成果指標の参加率においては、他行事との日程重複などの影響もあり目標値に対して乖離が見られ、自己評価はC評価となっている。

高齢化が進み、地域住民同士のコミュニケーションが取りづらくなっている中で、住民の身近な場所にある公民館での活動の活性化等が重要であり、ただ講師を招いて講話を聴くだけの形にとどまらず、地域住民や若い世代の要望や意見をアンケート等でしっかりと吸い上げ、地域色の強いテーマを取り入れるなど工夫を凝らし、公民館大会を盛り上げていく必要がある。伝統文化の継承や地域活性化に向けた伝統文化継承地域活性化補助金を、住民が主体となって地域の要望に有効活用できるよう、教育委員会事務局がしっかりと支援して欲しい。

No	評価 番 号	事 業 名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
6	4 1	図書館の運営の充実	C	継続	B	継続

意見

図書や資料等の収集・保存といった本来業務に加え、移動図書館車の運行、読書バリアフリーの推進、学校図書館システム支援、デジタル絵本室の運営など、全年齢向けの読書推進を提供している。

成果指標である町民1人当たりの年間平均貸出冊数は、目標の11冊に対し令和6年度が8.4冊、令和7年度が8.3冊と減少傾向にある。その要因として、小学生の児童数の減少や、中高生の読書率の継続的な低迷が挙げられている。移動図書館の巡回や、高齢者向けの読み聞かせ（「しゃべらん会」での手品披露などの工夫）が地域で喜ばれていることは評価できる。今後は、教育上の大きな課題である中高生の読書率を向上させるため、生徒たちからアイデアを募集したり、デジタル絵本や各種メディアを活用した魅力的な企画を実行して欲しい。

成果指標が達成できず一次評価はCであるが、地域においての新たな積極的な取り組みなどや成果を総合的に勘案して二次評価をBとした。

No	評価 番 号	事 業 名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
7	5 0	文化財保護・活用	B	継続	B	継続

意見

文化財保護審議会の開催（年3回程度）を通じて、指定文化財の現状変更に関する審議や情報共有、老朽化した解説看板の更新、連絡協議会を通じた他自治体との連携などを行っている。また、委員の発案による文化財の現地研修会を実施し、実際の状況を確認しながら議論を深める取り組みが行われている。

委員による現地研修の充実や学校（小学4年生の昔の道具の学習など）への資料提

供・説明といった教育現場での活用は評価されるが、一般住民に対する文化財情報の周知や発信がやや手薄になっており、博物館事業等と連携しながら町民に広く文化財の価値を知ってもらう仕組みづくりが課題である。また、資料の適切な保管や整理整頓についても、限られた人員の中で計画的に進めていってほしい。

No	評価 番 号	事 業 名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
8	5 4	新春ふれあい駅伝大会運営	A	継続	A	継続

意見

令和 7 年度に第 20 回の記念大会を迎え、増額された補助金を活用して徳島市の生光学園高等学校陸上競技部をゲストランナーとして招き、高校生 5 名が駅伝に参加したほか、コーチによるコース攻略のアドバイスなどが行われた。また小学生の 1 区・5 区の距離見直し（2.5km から 2km へ）など実情に合わせた点検・改善も行った結果、参加チーム数はここ数年で最も多い 55 チームになったことは評価できる。

県内の強豪校の走りに触れることが地元の子どもたちにとって非常に大きな刺激となったことが高く評価できる。タイムを競い合う本格的な側面と、家族や友人同士が和やかな雰囲気に参加できる市民大会としての側面の双方を大切にし、町外からも参加したくなるような魅力ある大会運営を継続・発展させていくことを期待したい。

No	評価 番 号	事 業 名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
9	5 8	部活動改革への対応の検討	B	継続	B	継続

意見

全国では、少子化や教員の働き方改革といった社会的背景を受け、原則すべての学校部活動における休日の地域展開に向けた改革が進められている。海陽町においても、団体の部活動で学校単位のチーム編成が難しくなる現状を踏まえ、牟岐町および美波町と共同で「海部郡部活動地域展開推進協議会」を立ち上げ、年間を通じて協議を重ねている。

中学校生活において部活動が果たす役割や存在感は非常に大きいため一気にすべての展開を進めるのではなく、野球、バドミントン、バレーボールといったモデル種目を選定しながら、指導者の確保や保護者の支援体制など多くの課題に対して海部郡内での綿密な合意形成を図り、子どもたちが無理なくスポーツや文化活動を楽しめる環境を慎重かつ着実に構築して着実に進めてもらいたい。

No	評価 番 号	事 業 名	一次評価（自己評価）		二次評価（外部評価）	
			評価	取組の方向性	評価	取組の方向性
10	6 4	衛生環境の向上 (洋式トイレの整備)	B	継続	B	継続

意見

学校施設の衛生環境改善の一環とした、トイレの洋式化に取り組んでおり、これまで

に宍喰小学校、海南小学校、宍喰中学校の工事が完了し、校舎の洋式化率は49%となっている。令和8年度には海陽中学校の整備を予定しており、完了時には整備率が55%に向上する見込みである。今年度で一通りの学校における洋式化が終了する予定となっており評価できる。

子どもたちが学校だけでなく最近の一般的な施設のように快適に使える環境づくりが大切であり、便座の暖房機能をはじめとする最新の設備や清潔さが保たれていることの重要性と、今後はトイレの洋式化が一区切り付くことに伴い、学校施設のさらなる環境改善として、照明のLED化など次のステップに向けた検討を進めてもらいたい。

(3) 教育委員会会議の活動状況について

令和7年度における海陽町教育委員会の会議開催状況等については教育長および4名の教育委員による合議制のもと、教育に関する重要事項や基本方針の審議・決定が適切に行われた。定例会については毎月1回確実に開催されたほか、臨時会も必要に応じて開催され、教育行政の円滑な執行が図られた。

具体的な開催実績としては、定例会を12回開催し、議案審議が34件、協議事項が22件、報告事項が35件の合計91件の案件について活発な審議と情報共有が行われた。臨時会についても1回開催され、議案1件、協議事項1件の計2件が審議された。

また、令和8年度より開始される、第4期教育振興計画策定に向け、総合教育会議が4回開催され、教育委員会と町長との間で、綿密かつ将来を見据えた会議が実施されている。

会議以外における活動状況としても、教育現場の実態把握や委員による視察研修などが積極的に実施されている。令和7年5月には、こども園のイメージ教育を中心とした、東京方面への視察研修を行うなど、先進的な教育・保育現場の知見を深める取組が行われた。

学校訪問については、年1回の町内の幼・小・中学校の訪問や運動会・体育祭、入学式・卒業式等の学校行事への参加等により、児童生徒や教職員の様子を目の当たりにし、意見交換等を行っており、本町における学校教育の現状を把握するうえで大変有意義である。今後もより一層、学校との連携を密にし、教育活動の効果的な推進に尽力されることを期待している。

また外部評価委員会や会議等の場においては、教育委員会内部における職員間の情報共有の徹底や会議資料の円滑な事前共有、さらには各事業の課題に対する組織的な連携体制の強化を進めていただきたい。これらの意見を真摯に受け止め、教育委員会事務局全体が一体となって情報の共有化と事務事業の質的向上を図り「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」の実現に向けた、実効性のある教育行政の推進に努めてもらいたい。

(4) 総評

令和7年度の事務事業の一次評価（自己評価）は、海陽町第3期教育振興計画（令和3年度から令和7年度までの5年間）の最終年度における目標、及び令和7年度海陽町教育基本方針に基づいたものとなっており、おおむね公正な事業運営を行っていると思われる。また、今回実施した68の事務事業ごとに事業目的、事業内容、事業の実施状況、事業費、評価、今後の方針が評価シート一枚にまとめられており、事務事業の計画の進捗状況や成果、課題が十分に確認することができた。

特に今回の外部評価は、一次評価を実施した68の事業の中から抽出した10事業の教育委員会主要施策等の事業と、教育委員会の活動状況について二次評価を行った。点検・評価を実施した事業や教育委員会の活動状況について、各担当から具体的で分かりやすい説明があり、質問に対しても適切な回答があり、外部評価の対象を適切に絞り込んだことで、施策について十分に理解することができるとともに、施策の課題も具体的に把握することができた。また、評価にあたっては、単年度の評価に留まらず、事務事業の経年的な比較分析により、効率的、効果的に執行されているかについても確認することができた。

各事業所管係による事業の達成度評価については、A、B、C、Dの4段階の一次評価（自己評価）のうち、Aが全体の約19%（19.1%）の13事業、Bが約65%（64.7%）に当たる44事業、Cが約10%（10.3%）の7事業、Dが約6%（5.9%）の4事業という結果となっている。GIGAスクール端末の活用や教育DXの推進、英語教育や地域と一体となった部活動の展開など、各事業において創意工夫を凝らした取り組みが進められ、着実な成果が挙げられており、さらなる事業の充実に期待したい。

今後の取り組みの方向性については、「拡充」、「継続」、「縮小」、「見直し」、「休廃止」の5段階の一次評価（自己評価）のうち、全体の約87%（86.8%）に当たる59事業が「継続」、拡充が約9%（8.8%）の6事業、「見直し」が約4%（4.4%）の3事業、「縮小」および「休廃止」は0という結果となっている。第3期教育振興計画の総括と次期計画への移行を見据え、各事業の役割に応じた妥当な方向性が示されているものと評価できる。

「継続」とした事業については、より効果的・効率的にするために、従来通りの内容で実施するのではなく、地域の教育ニーズや社会情勢の変化に合わせて、事業内容を柔軟に見直しをいただきたい。

「拡充」とした事業については、内容の充実、教育環境の整備、地域との連携強化など、より効率的な施策を検討し、適切に進めていただきたい。

「見直し」とした事業については、費用対効果、地域のニーズ等をさらに検証して、事業内容の見直しや実施方法の工夫、業務の効率化を図り、より柔軟な対応に努めていただきたい。

また外部評価委員会や会議等の場においては、教育委員会内部における職員間の情報共有の徹底や会議資料の円滑な事前共有、さらには各事業の課題に対する組織的な連携体制の強化を進めていただきたい。これらの意見を真摯に受け止め、教育委員会事務局全体が一体となって情報の共有化と事務事業の質的向上を図り「行きたい学校、帰りたい家庭、住みたい地域」の実現に向けた、実効性のある教育行政の推進に努めてもらいたい。

(5) おわりに

教育委員会には、この事務事業の点検・評価の内容を十分に精査し、教育行政の質的な向上に向けてさらなる工夫を講じられるとともに、第3期教育振興計画の総括と次期計画への移行を見据え、最大限の努力をはらい、住民のニーズに的確に応えていかれることを期待する。

令和8年7月24日

海陽町教育委員会外部評価委員会

評価委員 福井 千賀子

評価委員 皆津 隆一

海陽町教育委員会外部評価委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、海陽町教育委員会（以下「教育委員会」という。）に置く外部評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(職務)

第2条 委員は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認めること。

(外部評価委員の選任)

第3条 委員は教育等に学識を有する者2人を教育委員会が選任する。

- 2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は再任することができる。

(会議)

第4条 委員は教育委員会から事務事業の事後評価の報告が行われた場合、外部評価を行うものとする。

- 2 委員は必要があると認めたときは、委員以外の者を出席させて意見又は説明を聞くことができる。

(その他)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が定める。

附則

この要綱は、令和元年6月26日から施行する。

